平成２７年度

外部評価委員会報告書

久留米工業高等専門学校

ま　え　が　き

久留米工業高等専門学校長　三　川　譲　二

久留米工業高等専門学校外部評価委員会は、前身の「自己点検・評価協力者会議」（平成４年度設置）、「外部評価協力者会議」（平成１４年度設置）の後を受けて、平成１８年度から活動を開始しています。外部評価委員会の規程によれば、委員会は、「本校の振興発展に関心と理解のある学外有識者」によって組織され、「校長が付託する事項について検証、評価を行ない、本校の教育・研究の改善に資するため、提言を行なうこと」を目的にしています。

今年度は、「前年度の指摘事項について」（企画主事）、「教育の現状と改善について」（教務主事）、「ＪＡＢＥＥ教育プログラムについて」（専攻科主事）、「学生指導の現状について」（学生主事）、「学生寮の現状について」（寮務主事）と題して、５名の主事の先生にご報告をお願いし、ご評価をいただくことになりました。企画主事及び専攻科主事のご報告を除けば、本校の教育、研究、学校運営についての極めて基本的な報告だったかと思います。しかし、これらの報告に対する各委員からのご意見やご指摘は、多岐に亘り、正鵠を得たものばかりでありました。まことに敬服の限りであります。

学校が外部からのご評価を受けることの意義は、内部とは異なる視点からのご意見・ご指摘に謙虚に耳を傾け、それを学校運営の改善に役立てることにあるかと思います。また、そのことは、学校が外に向かって開かれていること、すなわち学校運営の透明性を担保していることにほかならないと考えます。

私たちは、この度いただいた委員の皆様のご意見とご指摘を頂門の一針として謙虚に受け止め、真摯に学校運営の改善と教育・研究の充実をはかって参る所存であります。

結びに、ご多忙中の折柄、ご出席賜り、貴重なご意見とご指摘を頂戴しました委員の皆様には、厚く御礼申し上げます。とりわけ、委員会の議事進行とご講評の取りまとめ等の労をお取り下さいました九州大学大学院工学院長の高松洋先生には心より感謝申し上げます。

目　　次

ま え が き

１．外部評価委員会委員名簿…… 4
２．外部評価委員会出席者名簿…… 5
３．外部評価委員会規程…… 6
４．外部評価委員会日程…… 7
５．開会挨拶…… 8
６．委員紹介…… 9
７．スケジュール説明及び資料確認…… 9
８．議長選出…… 9
９．議事
（１）前年度の指摘事項について……10
（２）教育の現状と改善について……11
（３）ＪＡＢＥＥ教育プログラムについて……12
（４）学生指導の現状について……14
（５）学生寮の現状について……15
（６）全体質疑……18
（７）講評……20
１０．閉会挨拶……21
１１．外部評価の結果……23
（１）評価点……24
（２）意見・提言……25
１２．説明資料
（１）前回の指摘事項について（校長補佐／企画主事）……29(1～ 7)
（２）教育の現状と改善について（副校長／教務主事）……39(1～10)
（３）JABEE 教育プログラムについて（校長補佐／専攻科主事）…… 51(1～18)
（４）学生指導の現状について（校長補佐／学生主事）……71(1～13)
（５）学生寮の現状について（校長補佐／寮務主事）……87(1～ 8)

久留米工業高等専門学校外部評価委員会委員名簿

平成27年12月　現在
（敬称略）

氏　　名	所　　属	職　　名
髙 松　　洋	九州大学	大学院工学研究院長
原 田　　明	九州大学	大学院総合理工学研究院長
永 田 見 生	久留米大学	学　　長
今 泉 勝 己	久留米工業大学	学　　長
橋 本 政 孝	久留米市	副 市 長
権 藤 博 文	久留米市中学校校長会	会長（市立諏訪中学校長）
中 川 修 三	大　電㈱	総務部長
長 洲 正 明	ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ㈱AVC ﾈｯﾄﾜｰｸｽ社	人事ｾﾝﾀｰ ｶﾝﾊﾟﾆｰ人事部 採用・人材開発課長
平 田 敬一郎	㈱久留米ﾘｻｰﾁ･ﾊﾟｰｸ	常務取締役

平成２７年度外部評価委員会出席者名簿

（敬称略）

外部評価委員

委員長	髙　松　　洋	九州大学大学院工学研究院長
委員代理	水　野　清　義	九州大学大学院総合理工学研究院副研究院長
委　員	永　田　見　生	久留米大学長
委　員	今　泉　勝　己	久留米工業大学長
委　員	権　藤　博　文	久留米市中学校長会会長　諏訪中学校長
委　員	中　川　修　三	大電株式会社　総務部長
委　員	長　洲　正　明	パナソニック株式会社ＡＶＣネットワークス社 人事ｾﾝﾀｰ ｶﾝﾊﾟﾆｰ人事部 採用・人材開発課長
委　員	平　田　敬一郎	株式会社久留米リサーチ・パーク 常務取締役

学校側参加者

校　　長	三　川　譲　二
副校長／教務主事	和　泉　直　志
校長補佐／学生主事	辻　　豊
校長補佐／専攻科主事	池　田　　隆
校長補佐／企画主事	江　﨑　昇　二
校長補佐／寮務主事	石　丸　良　平
機械工学科長	中　武　靖　仁
電気電子工学科長	平　川　靖　之
制御情報工学科長	丸　山　延　康
生物応用化学科長	冨　岡　寛　治
材料工学科長（代理）	田　中　慎　一
一般科目（文科系）学科長	安　部　規　子
一般科目（理科系）学科長	宮　本　久　一
図書館長	福　田　かおる
総合情報センター長	篠　島　弘　幸
校長特別補佐／産学民連携テクノセンター長	中　嶌　裕　之
学生相談室長	笈　木　宏　和
企画主事補	津　田　祐　輔
企画主事補	黒　木　祥　光
事務部長	辻　本　　功
学生課長	磯　田　信　一

久留米工業高等専門学校外部評価委員会規程

（平成１６年７月２３日制定）

（設置）

第１条　久留米工業高等専門学校（以下「本校」という。）に学外の有識者による外部評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（目的）

第２条　委員会は、校長が付託する事項について検証、評価を行ない、本校の教育・研究の改善に資するため、提言を行なうことを目的とする。

（組織）

第３条　委員会は、本校の振興発展に関心と理解のある学外有識者のうちから、校長が委嘱した委員をもって組織する。

２　委員の任期は２年とし、再任を妨げない。なお、委員の職にある者が任期中、転退職した場合、後任者が引き継ぐものとする。この場合、委員の任期は前任者の残任期間とする。

（委員長）

第４条　委員会に委員長を置き、校長が委嘱する。

２　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

（報告）

第５条　委員会は、第２条の検証、評価が終了したときは、評価の結果を校長に報告するものとする。

（事務）

第６条　委員会の事務は、総務課総務課長補佐（総務担当）において処理する。

附　則

この規程は、平成１６年７月２３日から施行する。

附　則

この規程は、平成１８年６月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成１９年４月１日から施行する。

平成２７度外部評価委員会日程

日　時　　平成２７年１２月１０日（木）　１３：３０～１６：２０
場　所　　久留米工業高等専門学校　産学民連携テクノセンター棟２階
　　地域連携多目的室

13：30　開会

13：30　開会の挨拶

13：35　委員の紹介及び進行スケジュールの説明

13：40　議長選出

13：45　議題
（１）「前回の指摘事項について」　（校長補佐／企画主事）

（２）「教育の現状と改善について」　（副校長／教務主事）

（３）「JABEE 教育プログラムについて」　（校長補佐／専攻科主事）

（４）「学生指導の現状について」　（校長補佐／学生主事）

（５）「学生寮の現状について」　（校長補佐／寮務主事）

16：05　講評

16：15　閉会の挨拶

16：20　閉会

開 会 挨 拶

三川校長：本日は、お忙しいところ本校の外部評価委員会にご出席いただき誠に有り難うございます。また、足元がお悪い中有り難うございます。どうぞよろしくお願いいたします。

規程にもございますとおり、外部評価委員会の目的と申しますのは、本校の教育研究の検証、あるいはご評価をいただきまして、それを学校運営の改善に役立てさせていただくということでございます。しかしながら、私ども、外部評価委員の皆様を前にしますと、どうもまな板の上の鯉、あるいは、白洲の上に座らされているような、そういうような心境になってしまいがちでありますが、私共といたしましては、自然体で学校の教育研究の現状についてご報告差し上げまして、また、改善のご指摘がありました場合には、その点を改善させていただきたいと考えているところでございます。

本校は、昨年度、旧制の高専から７５周年、新制の高専から創立５０周年ということで、皆様方のご協力を賜りまして記念行事等を実施させていただいた次第でございます。５０年の大きな節目に差し掛かっているところでございます。卒業生・修了生合わせて１３，０００余名ということで、リタイアされている方もおられますが、たくさんのＯＢ、ＯＧの皆さんが、国内外各方面でご活躍されております。

同窓会組織にネットワークがございまして、校長として、関東支部、東海支部、関西支部、北九州支部、福岡支部等の支部総会にお招きいただき、挨拶させていただいたり、またアドバイスをいただいたりして､本当に久留米高専が期待されているのだということを実感しているところでございます。また、高専制度そのものも、只今申し上げましたとおり、５０年以上を経ているところでございまして、日本の工業化を支えてきた、また現に支えているエンジニアを育成してきたということで、産業界あるいは地域･社会から､有り難いことに非常に高いご評価をいただいているところでございます。

しかし一方、国の財政事情等もございまして財務状況は逼迫しているところでございます。具体的に言いますと、運営費交付金というもので学校運営に当たっているわけですが、年々歳々、先に向かって国と同じように逼迫している状況でございます。それから、ご承知のように少子化も、超とつけていいくらい進んでおりまして、入学者の確保に非常に努力していかないといけないというような状況でございます。その中で、また和泉先生の方から報告があるかと思いますが、専門学校、専修学校が大学化の動きを示しております。また、高校にあっては高大接続ということを密にしている。これは文部科学省の指導もあるのでございますが、そうした中で、私が申し上げるのもおかしいかもしれませんが、歴史もあって輝かしい実績を持っている高専の立ち位置を明確にしないといけないということが課題になってきているのでございます。

久留米高専は、国立高専機構の一つの機関でありますが、国立高専を束ねている国立高専機構は、全国で９地区あった高専を５つのブロックに再編しまして、教育・研究、国際交流等を含めまして、協働共有化というものを強めてきているわけでございます。その先に高専間の統合というものがあるのかどうか、まだ日程には上がってはいないのでございますが、少子化を背景にして、そういうことも考えていかないといけないというようなことになっています。

もう一つは、本科の５年生に対して、あと２年、専攻科というものがございます。しかし、専攻科には設置基準がなく、制度の裏付け、あるいは財政的な裏付けがほとんどないというような状況でございまして、その制度を、７年生にするといった議論も高専機構の内部では進めてきているところでございます。これは、直接高専機構の動きではございませんが、周辺の動きとしては、昨年の秋に高等専門学校を考える議員連盟ができました。色々な方が高専に対して前向きなご提言をいただいているというようなところでございます。

また、文部科学省では、高等専門学校の充実に関する調査研究協力者会議を立ち上げて検討を重ねております。これは、いわゆる有識者会議であり、座長は東京工業大学長の三島良直先生でございま

すが、そういう状況になって、高専も非常に大きな曲がり角に来ているということでございます。

そうした中で、外部評価委員会を開かせていただいており、非常に意義深いものがあり、委員の皆様方からいろいろなご意見・ご指摘を期待しているところでございます。今日の報告については、５人の副校長及び校長補佐に本校の教育・研究の概要について報告していただいたうえで、ご評価いただくということでございますが、報告のテーマについては、教育・研究の影響を考えまして、ＪＡＢＥＥについてのご報告もございます。今年度は、ＪＡＢＥＥの受審の年でございまして、その関係もあり報告させていただきます。それから、外部評価委員の皆様の半数以上の方が初めて本校にお出でいただいておりまして、新鮮な目で、高校でもなく、また大学とも違った高専独自の教育を見ていただいて、ご意見を賜りたいということで、学生指導と学生寮、全国の高専にはすべて学生寮がございまして、学生寮の現状についてもご報告させていただいて、ご意見を賜りたいと思っております。そうしたテーマ設定をさせていただいた次第でございます。

その他のご質問等につきましては、それぞれの各担当者が参席しておりますので、ご質問等にはお答えできる準備をさせていただいております。長い時間になり大変恐縮でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

委 員 紹 介

辻本事務部長より外部評価委員の紹介、並びに学校側出席者の紹介が行われた。

スケジュール説明及び資料確認

辻本事務部長より本日の外部評価委員会のスケジュールの説明と配布資料の確認が行われた。

議 長 選 出

久留米工業高等専門学校外部評価委員会規程第４条第２項の規定に基づき、外部評価委員会委員長である髙松九州大学大学院工学研究院長が議長に選出された。

議　　事

（1）前年度の指摘事項について

髙松委員長：議長を仰せつかりました九州大学大学院工学研究院長の髙松でございます。どうぞよろしくお願いいたします。では、早速議事進行を務めてまいりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。それでは、日程表に沿って議事を進めさせていただきます。まず、議題の１でございまして、「前年度の指摘事項について」ということで、江崎企画主事からご説明お願いいたします。

（江崎企画主事から、資料「前年度の指摘事項について」（Ｐ２８～Ｐ３７）に基づき説明）

【質疑応答】

髙松委員長：どうも有り難うございました。今の件につきまして、何かご質問、ご意見等ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。もしあれば、また後程まとめてお願いいたします。有り難うございました。

（２）教育の現状と改善について

髙松委員長：それでは、続きまして、議題２でございますが、「教育の現状と改善について」ということで、和泉教務主事から説明をお願いいたします。

（和泉教務主事から、資料「教育の現状と改善について」（Ｐ３８～Ｐ４９）に基づき説明）

【質疑応答】

髙松委員長：どうも有り難うございました。今の件につきまして、何かご質問、ご意見等ございませんでしょうか。

水野代理：学生による授業アンケートでは、良くなっているというのが顕著に見えております。平成２５年度のところでちょっと上がっています。平成２４年度から比べますと大きく改善しているようですが、何か理由があるのでしょうか。

和泉教務主事：理由までは把握しておりませんが、上がって良かったと思っております。何が違うかというのはデータを見てみないとよくわかりません。アンケートは継続的にとっておりますが、企画主事から先程説明がありましたように、少しずつは変えており、大きくは変わっておりません。

水野代理：あまり関係ないかもしれませんが、入学志願状況のところです。福岡県の資料なのでご存知ないかもしれませんが、福岡県の中学生数は、平成２７年度までが実際のもので、その後の数はどういう数でしょうか。

和泉教務主事：福岡県が予測したものです。

水野代理：平成３２年以降に上がっているのは、何か理由があるのでしょうか。

和泉教務主事：ちょっとわかりません。少子化で下がっておりますが、福岡は九州の他の県から集まってくるからかもしれません。福岡の独り勝ちと言われていますから。

今泉委員：中学生の方を学校に色々とご案内するのに、６か月程、１年の半分ほどの期間を費やしておられるようですが、これは主として職員の方が担当しておられるのでしょうか。

和泉教務主事：教務主事室というのがございまして、各学科から１名が出てきております。そこで色々とプランを立てております。それから、一日体験入学の対応は、全学校を上げて、全学科を上げてやっており、中学校に行くのはベテランの教員が行っております。どちらかというと教員主体で行っております。

今泉委員：教員主体でやっているのですね。分かりました。有り難うございました。

髙松委員長：他にございませんでしょうか。私から一件だけよろしいでしょうか。
私は初めてなので、大雑把なことだけ教えていただきたいと思います。高校３年と大学４年で７年のところを高専では５年でやられるという話で、しかも、実技が多いというのは分かっているのですが、高校に相当する一般科目と専門科目は、普通高校から大学に行くのと、どこがどれくらい減っているのか教えていただけませんでしょうか。

和泉教務主事：よく言われますのは、高専生に対しては、英語力が弱い。それから、高専ができた経緯から、専門教育に偏っている。ちょうど、大学の１年、２年の当たりの一般教養科目というところが少ないということだろうと思います。

髙松委員長：高校に相当するところの理科とか社会とか、その辺はあまり変わらないのでしょうか。

和泉教務主事：はい。その辺は、あまり変わりません。単位数まで見てはおりませんが、科目自体は、社会は４科目全部やっております。

髙松委員長：有り難うございました。よろしいでしょうか。

（３）ＪＡＢＥＥ教育プログラムについて

髙松委員長：それでは、議題の３番目に移りたいと思います。「ＪＡＢＥＥ教育プログラムについて」ということで、池田専攻科主事から説明をお願いします。

（池田専攻科主事から、資料「ＪＡＢＥＥ教育プログラムについて」（Ｐ５０～Ｐ６９）に基づき説明）

【質疑応答】

髙松委員長：有り難うございました。今の件につきまして、何かご質問はございませんでしょうか。

今泉委員：最後の結論のところでございますが、ＪＡＢＥＥ教育プログラムは全員が受けるのでしょうか。

池田専攻科主事：はい。全員が受けます。

今泉委員：それでは、メリットとしては、例えば、海外で国際的に活躍する場面で役に立つとか、国内では、ＪＡＢＥＥの資格が高専で取れているということが、どういう意義付けが今のところなされているのでしょうか。

池田専攻科主事：そこは、はっきりはないと思います。ＪＡＢＥＥの方も、中央の方が、色々と動いているようですが、あまりはっきりした効果は出ていないように思います。

私どもの方としては、ＪＡＢＥＥは認証評価の前から行われており、認証評価が始まった時に、そのプロセスに近い形でチェックが入ったので、そういった時には、その手順が少しは分かりやすかったかなというのはございます。

髙松委員長：他にございませんでしょうか。私の方からよろしいでしょうか。

私は、日本全国でＪＡＢＥＥ、ＪＡＢＥＥと言っていた時に、学部教育に携わっていなかったので余り詳しくはないのですが、今の表を拝見して、カリキュラムを作る時にどういう能力づくりのためにされたかというイメージは分かりました。ゼロからスタートするのが、非常に大変というのは想像に難くないのですが、一旦できたプログラムが走り始めて、それをずっと維持していく際に大変なところはどういうところでしょうか。

池田専攻科主事：今は、業務が変わらなければというところですが、いろんなことが増えてきている状況です。たしかに、継続になれば前よりは軽く回っているのかなという印象はあります。そこのバランスと費用的なものがあり、「５つのプログラムを頑張っています。」と言っておりますが、費用はその５倍かかる面も出たりしています。

髙松委員長：維持するのにも書類作成に結構大変なところがあるのですか。

池田専攻科主事：維持するのは、認定期間のうちに中間審査を受けるということと、修了生の数を報告するということだけです。ただ、維持費というのを払わないといけません。１プログラムで年間１０万円くらいだったと思います。

今泉委員：私も実際にやったことはないので、よくは分からないのですが、ＪＡＢＥＥ以外の本来の学科の教育をやることの方が、学生の教育にはいいのではないかということから、ＪＡＢＥＥをやることで、ＪＡＢＥＥの教育と本来の学科教育とで、バッティングするようなことはないのでしょうか。

池田専攻科主事：ＪＡＢＥＥが求めていることも、教育したそのエビデンスをちゃんとおけということであり、やろうとしていること自体は日常の中から抜き取っている作業なので、そこはあまりバッティングしないと思います。ただ、途中、中間審査を受けたりとか、次の審査を受けたりとか、そういう時にはそれなりの対応が求められるということはあります。あともう一つは、「卒業生に対するアンケートを取っておきなさい。」とか、そういうことを非常に推めてきますので、それをやっておけば、役に立つこともあるかとは思います。

平田委員：せっかくＪＡＢＥＥをやっているので、修了生に対するメリットというものを明確にしておく

必要があるのではないでしょうか。

池田専攻科主事：問題は、それを誰がやるのかということが問題であって、ＪＡＢＥＥの認定を受けているので、「認定機関の方がメリットをもっと出してください。」と言いたいのですが、逆にＪＡＢＥＥは、「こちらもやってください。」とおっしゃるので、具体的運用のところで上手く調整していくことが必要なのかと思っております。ただ、教育点検ということでは、かなり質は高まってきたのではと思っています。

平田委員：学生も、ＪＡＢＥＥをやれば質は上がってきましたでしょうか。

池田専攻科主事：ＪＡＢＥＥは、ＪＡＢＥＥから「これは出来ていますか。」と聞かれると、「こうやったから、こうできました。」と答えなくてはいけません。また、「学生の希望を聞いていますか。」と聞かれると、「ここでこうやって、こうしました。」と言わないといけないので、それが透明化されたということはあるだろうと思います。

髙松委員長：他にございませんでしょうか。

資料の中にＰＤＣＡについて書かれていますが、今、言われましたように、アンケートを取った後で、これを改善しようとかいうのが、そういうことになるのでしょうか。

池田専攻科主事：要するに、小さな部分でもいいから「そういう点は残しましょうね。」、「議事録取りましょうね。」と言ってくるので、そういうところはあります。

髙松委員長：カリキュラムが一番大切だと思いますが、カリキュラムの見直しということもやられるのでしょうか。

池田専攻科主事：アンケートとかで、「科目はこういうのが欲しい。」とか、「アンケートをとったからやる。」というのもありますし、逆にこちらが思っているものを、「卒業生もそう思っているよね。」とか、そういうものもあります。

髙松委員長：他にございませんでしょうか。よろしいですか。

（４）学生指導の現状について

髙松委員長：それでは、そろそろ時間ですので、後半を開始したいと思います。次は議題の４でございまして、「学生指導の現状について」ということで、辻学生主事からご説明お願いします。

（辻学生主事主事から、資料「学生指導の現状について」（Ｐ７０～Ｐ８５）に基づき説明）

【質疑応答】

髙松委員長：有り難うございました。今のご説明につきまして、何かご質問、ご意見等ございませんでしょうか。

権藤委員：５ページでございます。学生相談室のカウンセリング受診件数（のべ）というのが資料として上がっておりますが、左側の棒グラフの中で、結構、学生たちがカウンセリングを受けていることが分かります。学年の内訳等が分かれば教えていただきたいのが一点と、もう一つは、相談内容にも関連してくるかと思いますが、文部科学省のいじめの定義が以前と変わっている中で、高専においてもいじめと認知されるのがあるのかどうかということと、併せて不登校の学生数がどれくらいおられるのかということを教えていただきたいと思います。不登校を生まない取り組み、不登校になった学生を学校に復帰させる取り組み、また不登校を解消させる取り組みというものも考えられると思いますが、そのへんで具体的な取り組みが何かあれば紹介していただければと思います。よろしくお願いします。

辻学生主事：まず、学年別の件ですが、相談件数としては、おそらく３年生と４年生あたりが少々多いかなという気がします。今、具体的な数字のデータを持っておりませんが、そのあたりが成績等のことで相談が多いのかなという気がしております。

不登校の件ですが、不登校の学生はゼロではありませんが、それ程多くはないと思います。どうしても、入学した時点で専門が決まっておりますので、専門が合わない学生がおります。進路について悩み出し、学校に出てこなくなる例がポツポツ見られると思います。

いじめと認識されるような事例につきましては、私が主事になり３年目になりますが、２件ありました。カウンセラーの方と話もしておりますが、高専という学校の特徴らしく、「いじめという事例は少ない。」というのが、高専の特徴だとカウンセラーの方も言われております。おそらく、自分のやりたいことが割とはっきりしている学生が多く、そういう学生が集まってきておりますので、余りいじめに発展するようなことは少ないと、私も認識しております。

平田委員：例年、カウンセリングはやられていると思うのですが、２０年度より前のカウンセリング数というのはどうでしょうか。

辻学生主事：２０年度より前のでしょうか。今ここではデータがございませんが。

平田委員：「昔の学生の方が、精神的に頑強だったから。」とか、そういうことはございませんでしょうか。

辻学生主事：それはあるかもしれません。私も十数年、久留米高専でお世話になっておりますが、やはり学生が、年々ひ弱になってきているというような感じはします。

今泉委員：同じような質問ですが、発達障害の学生は、どのくらいの割合でいると捉えておられるのか。それから退学との関連性があるのか。そのへんのことを少しご説明いただければと思います。

辻学生主事：発達障害の問題につきましては、大変デリケートな問題でございます。一応、本校では、保護者の方もそうだと認められている発達障害の学生については、数例あると思います。微妙なところの学生もいるのは事実ですが、そういう学生につきましては、各学科の先生方のご努力で、だいたい卒業しているかと思います。

今泉委員：もうひとつよろしいですか。５年生で高学年の学生が、低学年のいわゆる高校世代の学生をう

まく指導しておられるとお聞きしまして、具体的にどういうふうに、高学年の学生が低学年の学生を指導しているのか。例えば、体育祭とか文化祭とかいう機会にどういう指導をしているのでしょうか。

辻学生主事：今日も雨で開催できず残念だったのですが、クラスマッチをやっております。選出された実行委員会のメンバーには、４年生、５年生もおりますし、１年生から３年生も入っております。上級生と下級生のペアみたいな形で、色々やることを引き継ぎながらやっております。特に顕著なのが、体育祭の応援合戦の練習だと思いますが、早い学科は夏休みくらいから応援団員を募集しまして、演舞指導等を上級生が熱心に教えて下級生を育てております。見ていると面白いのですが、１年生というと、中学を卒業したばかりでまだまだ子供ですけれども、その子供たちを２０歳近いお兄さんたちが一生懸命に教えております。

水野委員代理：先生方は、細かいところまで丁寧に学生たちを指導されて感心しているのですが、さらにクラブの顧問まで担当されて体が持つのかなと心配しています。先生方の健康状態とかは、きちんと把握されているのでしょうか。

辻学生主事：真面目に高専の先生をやっていると、高校の先生と大学の先生を足して２で割らないといけないぐらい業務があります。私もクラブ顧問になっているのですが、ほとんど引率要員としてぐらいしか機能していないのが実情です。ただ、クラブに関しても、高校生だけでなく４、５年生がおりますので、４、５年生が指導的な立場でやっていくのが高専教育の魅力ではないかなと感じております。先生によっては、一生懸命にクラブ指導をされる先生もおられますし、そのへんは先生方の裁量によって運営しているのが実情だと思います。

水野委員代理：裁量だけにしていますと、やりすぎてしまう先生もあるかと思いますので、注意していただけたらと思います。

辻学生主事：有難うございます。

髙松委員長：他にございませんでしょうか。よろしいでしょうか。どうも有難うございました。

（５）学生寮の現状について

髙松委員長：それでは、最後の議題５、「学生寮の現状について」ということで、石丸寮務主事から説明をお願いいたします。

（石丸寮務主事から、資料「学生寮の現状について」（Ｐ８６～Ｐ９５）に基づき説明）

【質疑応答】

髙松委員長：どうも有り難うございました。今のご説明につきまして、何かご質問、ご意見等ございませんでしょうか。

平田委員：女子寮ですが、入居率１００％ですね。入居希望者というのは、他にはいないのでしょうか。

石丸寮務主事：入居希望者は、今年度の場合は、３３名希望者がおりまして、残念ながら３名はご遠慮いただいた状況でございます。

平田委員：その場合は、宿泊施設の提供ということになると思うのですが。

石丸寮務主事：学校としては、特に個別に宿泊をどこにしてくださいとか指導することはありません。

平田委員：「学生寮のまとめ」に宿泊施設の提供というのがありますが、これは斡旋だけですか。ほかに何か、学生にメリットがありますか。

石丸寮務主事：「学生寮のまとめ」に書いている意味は、遠距離から来られる学生のために寮という形で宿泊施設を提供しますということです。

平田委員：資料の写真を見ますと、留学生の中には、イスラム教の方もおられるみたいですが、それに対しての対応はどうされておられますか。

石丸寮務主事：基本的には、食事の問題が出てくるのですが、それについては、補食室、要は自炊ができる部屋を、留学生用の部屋を用意しております。普通の食事ができないという留学生については、自分たちで作るようになっております。

中川委員：優秀な女性の採用を拡大したいということで、女性の寮とかを設置することを考えております。久留米高専の女子寮は３０名が定員で３３名が希望しているということですが、部屋を活用できる優先順位というのはあるのでしょうか。

石丸寮務主事：優先順位は、基本的には通学が困難な方から優先的に入れるということで、近い方からご遠慮いただいているということになります。

中川委員：寮があるから久留米高専に応募したが、寮に入れなかったので、辞退したいという人はおられないでしょうか。

石丸寮務主事：辞退した方はおられないと思います。今年度、初めて定員をオーバーした現象が起こりまして、それまでは定員にいっていない状況でしたので、女子学生については今年度の３名の人が初めてになります。その３名の方には、「もしも寮が空いた場合には寮に入りますか。」と事前に問い合わせをしており、空いたら寮に入りたいという返事をいただいておりますが、実際には寮が空いていないということで、現状通学していただいているということになっております。

髙松委員長：他にございませんか。

全体の何パーセントが寮生ということになるのでしょうか。

石丸寮務主事：本校全体で、学生は１，１００名くらいです。寮生は、そのうちの１７０数名ですので、２割いっていないくらいになります。

髙松委員長：寮生は、寮生の団結みたいなものはあるのでしょうか。

石丸寮務主事：団結になるのか分かりませんが、寮生の団結はそれなりにはあるかと思います。寮に入ると、皆さん比較的挨拶はよくするようになります。

髙松委員長：寮生と寮生でない人との一番の違いは、そういう礼儀正しさとか、規律に対するものとか、そういうところですか。

石丸寮務主事：挨拶は、良くわかるなという気がします。

髙松委員長：他にございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

今泉委員：閉寮期間というものを設けておられますが、その期間、特別な寮の活用というものはあるのでしょうか。例えば、サマースクールみたいなものに活用していくとか、それとも全くブラッシュアップするために閉寮期間を設けておられるのですか。

石丸寮務主事：実際の活用としては、部活動の合宿というので一部利用しております。それから、夏になりますと、専攻科でサマーレクチャーというのをやりますが、そちらで本校以外の高専からも募集をかけます。そういうところで利用したりしております。また、今はやっておりませんが、今後、外国からの留学生等が増える傾向にございますので、そういったところで夏の間もこちらに滞在しないといけない場合は利用するというようなところにもなろうかと思います。

今泉委員：滞在期間を聞き洩らしたのですが、寮に入れる期間ですが、これは１年ですか、希望する期間ですか。

石丸寮務主事：基本的には１年ですが、１年間寮に入った後に「翌年はどうしますか。」と希望をとり、翌年も入りたいと希望すれば入れます。ただし、女子寮につきましては、現在定員をオーバーしていますので、１年単位で選別をするような形になります。

今泉委員：女子寮の場合、今年は定員オーバーということですが、高専生は寮に入ることを希望しているのでしょうか、それともそうではないのでしょうか。

石丸寮務主事：入りたいという学生は、そこそこいると思います。と言いますのが、久留米市内でも入っ

ている学生はいます。比較的ほかの高専に比べて交通の便がいいので、全体的には２割弱くらいの入寮率です。遠い学生は勿論入らないと通えないのですが、近い学生でも入っているものもいます。一番多いのが福岡市からなのですが、同じ福岡市でも入っている学生もいますし、通っている学生もいるというような状況です。入りたい、入りたくないというのは、学生によるのだと思います。入ることによって楽しいという学生もいますし、通学生に比べると上下の関係がちょっと厳しいというようなところもあるのかもしれませんが、そういったのを敬遠するような学生は入りたくないというところがあると思います。

今泉委員：学生の気質というのは、あまり変わっていないということでしょうか。最近は、寮に入ってきている学生が少なくなってきているのか、そうではなくて以前から一定数の学生は大体入ってきているのでしょうか。

石丸寮務主事：入っている数は、若干の上下はあると思いますけれども、昔から百数十名の学生が入っていると思いますので、前に比べて気質が変わったとかいうのは、数としては表われていないと思います。

髙松委員長：何かございませんでしょうか。

権藤委員：学生寮の問題ですが、寮生を育てるため、鍛えるために様々なプログラムを作られているなと感心しているところです。学生寮のルールとして、これだけは守らないといけないというルールは何かございますでしょうか。

石丸寮務主事：いわゆる一般的な暴力であるとか、いじめであるとか、あと窃盗、恐喝そういったものは厳しく指導をすることになります。「寮生活のしおり」というものを寮生と保護者に配っているのですが、その中に基準表というのがあって、「こういうことはやってはいけませんよ。」というのは書いております。「やった場合には、どういう処分が下りますよ。」というのが書かれております。ただ、これはあくまでも基準であって、最終的には先ほどちょっと説明しましたが、寮務委員会というところで最終的な処分が決まるということになります。

髙松委員長：よろしいでしょうか。

全 体 質 疑

髙松委員長：高専の方で用意していただきました５つの議題についてご説明いただいて、ご意見ご質問を伺いました。今までの課題でもよろしいですし、それ以外のものでもある程度よろしいので、ご意見、あるいは別にご質問とかございましたら頂戴したいのですが。いかがでしょうか。

長洲委員：色々な取組みをされていることに対して感銘を受けたのですが、弊社でも様々な仕事が増える一方で、どのように業務改善をすべきか非常に悩んでいるところです。久留米高専でも課題に対して様々なことに取り組んでおられると思うのですが、その一方で思い切ってやめるとか、仕事を行っている上でも仕事の無駄を省くとか、そういった観点で何か見直しているところがあれば教えていただきたいですし、そういった観点でも発表されたらどうかと思います。

江崎企画主事：確かに我々も繁忙化対策というのは重要課題だと考えております。今年になって、研究時間確保という観点で、いくつか課題を上げ、その対策を検討しているところです。以前からそういう話はありましたが、なかなか具体的には進んでいないことは確かです。頑張っているところです。

和泉教務主事：先ほど授業時間のことが出ておりましたが、色々基準も変わったりしております。今、本校の授業時間は１００分ですが、今、大学でも１００分しているところはないと思います。九州の高専の中ではどうかという話が進んでおり、それが１つ繁忙化対策、まあ終わる時間が２０分～３０分早くなります。会議というのは、高専ではいろんな教員が委員会に属しており、みんな授業やっていますので、揃うのはそれが終わってからということになります。一つとしては授業時間を短くして、それから学生に自学自習の時間を提供する、確保するという意味もございますので、繁忙化対策だけではない効果もあると思います。ちょうど来週の教務委員会で提案して、また学科長の先生方にどうしようかという相談を始めたところでございます。ひとつ例を申しました。

三川校長：長洲様ご指摘ありがとうございます。

校長としても、今日は大体教育に関わる報告が主だったのですが、これに対して、研究ということがあり、全教員に、また一部技術職員の方にもお願いしているところでございます。

先ほど水野先生から体が持つのかというご指摘がございましたが、そういう観点のご指摘は、ありがたく受け止めた次第でございます。今、和泉先生、江崎先生からお話がありましたように、これはもう、業務の繁忙化をどうやって解消できるかということが高専機構を上げての課題でございますが、なかなか妙策は見つかりません。委員会数を減らすとか、委員会に所属する委員の数を減らすとか、あるいは、クラブ指導なんかについては、アウトソーシング出来ないかという、そこもなかなか学生との交わりがありますので難しいのですが、そうした検討を高専機構全体として進めているところでございます。

先ほどご指摘がございましたように、高校並みの学生指導、生徒指導、それから大学並みの研究、そういうものを足して２で割るというようなことをやらないといけない。それは、５年間で大学に対抗するというようなことで、実際、出来てるかどうか分からないのですが、そういうようなことでやりますと、やはり消耗し尽くしてしまうというようなことがございます。それをなにがしかの組織的な工夫で何とか緩和できないか、考えているところでございます。科研費なんかも、全員に申請をお願いしました。また、それに対しては、それを満たしていただけるようなご努力をされている。全く頭の下がる思いでありますが、何とかそれをいろんな方のお力を借りながら、打開していきたいと思っている次第でございます。どうも、有り難うございました。

髙松委員長：他にございませんでしょうか。

権藤委員：最初の方に説明がありましたように、一日体験入学（オープンキャンパス）ですが、これにつきましては、中学校の生徒にとっては非常に有り難いものでございます。久留米高専に行ったらロボコンとプロコンに出たいというふうな希望をしている子供たちも中学校の時からおりますし、実際に

久留米高専のどの学科でどんな内容で色んな授業が行われているかがよく分かって非常に良かったという話があります。ぜひこの内容を充実していただければというふうに思っております。久留米市と小郡市あたりが、公立高校が、学区でいいますと第８学区ということになりますが、８月の上旬、第１土曜日に小郡市の七夕会館で８学区の全公立高校が集まって、生徒会の子供たちが中心に８学区の３年生の保護者、あるいは２年生、１年生も行っていいというふうになっていて、保護者も参加しながら学校紹介をしています。そういったこともありますので、ぜひ久留米高専におかれましても、この一日体験入学というものをさらに充実していただいて、中学校の子供たちにさらに内容が分かるようにしていただければというふうに思っています。以上です。

和泉教務主事：どうもコメント有り難うございました。

水野委員代理：私は九州大学大学院総合理工学研究院に勤めており、大学院に久留米高専から学生が入ってきて活躍されているのですが、ものすごく活躍する学生が多いのです。それは、こうやって指導を一生懸命にされている成果だと思うのですが、研究もされているということで、例えば科研費に申請することも、単独で申請するのは大変だと思いますので、我々と、もし共同してできるのであればとおもいます。協力すると申請しやすいので、そういうことも含めて、関係を深めていければと思いますので、よろしくお願いいたします。

三川校長：有り難うございます。こちらこそどうぞよろしくお願いいたします。

髙松委員長：他にございませんでしょうか。

私から１つよろしいでしょうか。今日は外部評価委員会を開いていただいたということで、一つは外部評価委員会を開いたということ自体が重要だということは分かるのですが、もう一つは少しでも違う人の意見を取り入れて少しでも良くしようという思いからされているのだと思います。

そして、こういうテーマを上げられて説明をされたのですが、こういう評価をする時は、どうしても今、現状こうで短期的にこうこうということがメインとなるとは思うのです。しかし、よくよく考えると、普通なかなかしないのですが、重要な点は、長期的展望にたってどうしようと考えていますとか、久留米高専とはこういうもので、ここが一番大事ですといったことを説明されることだと思います。本当は、そこが久留米高専でも、どこの組織でも一番重要だと思うのです。

そういうふうに考えた時に、組織が良くあるためには、ずっと良くあるためには、一つはシステムがいいということ、もう一つは人がいいということ、この二つです。システムは当然大事ですが、いくらシステムが良くても、人が駄目なら結局どんなによいシステムを作っても駄目だと思います。では、人とは何かと言ったら、それはもう人事に尽きると思います。私は、基本的に物事は９割以上人事に尽きると思っています。そういう面で見た時に、ちょっと、今日、資料を拝見させていただいた時に思ったのですが、持続可能であるためには、分野や年齢構成が重要になります。一度に多くの人が定年等で辞めて新しい人がどっと入ったりしたら継続が非常に難しい。「今のところちゃんとこういうふうにやってますよ。」という観点が重要かなと思いました。

もう一点は、新しい人を採る時に、どこの組織でもそうですけど、人事の重要なポイントは何かということ。これは組織によって違うわけで、今は基本的にどこでも公募制になっていて、書類選考になってくると、どうしても研究業績がどうのこうのといったふうになりがちなような気がするのですが、久留米高専としてはどういう点を重要視して人事をやるか。そういうところが重要だと私は思っています。それは、別に評価の時に「これこれこうですよ。」というのを示していただく必要はないのですが、私は一番重要なのは人事だと思っていますので、「方針としてはこうですよ。」という筋というか、大方針というのがやはりこういう時には重要かなと。それを最初に示していただくのが一番いいかなという気がしております。これは別に質問ではなくてコメントですが、講評には入れません。

三川校長：入れていただいた方が宜しいかと思います。全くその通りだと思います。有り難うございました。

髙松委員長：他にございませんようでしたら、これで終わりにさせていただきます。

講　　評

髙松委員長：本日は、外部評価ということで、色んなことを聞かせていただきまして有り難うございました。この伝統ある久留米高専で、先生方が色んなご努力をされているというのはよく分かりました。例えば、上級生が下級生を指導するということ。これは高専の特徴で、よい人材育成になっていると思って非常に感銘を受けましたし、５学科全部がＪＡＢＥＥで頑張っておられる。その他色々と、非常に先生方が頑張っておられることが良くわかりました。

ただ、いくつか申し上げておきたいことをあげますと、一つは、今日の質問とそれに対する回答をいただいて気になったのが、先程のカウンセリングや不登校の問題がございます。統計的なものは示されておりますが、やはり、例えば何年生の時に多いかとか、そういうふうなことは、やっぱり結構大事なことなので、もっと分析されてやられればもっといいかなという気がしました。

それと、今日は５つ項目を上げて説明いただいたのですが、私を含めてみなさんは今日初めてお聞きするわけで、例えば、寮についてもどういうものかすら知らないので、その問題がどのくらい重要なのかもわからない。先程も申し上げたのですが、久留米高専をどうするのかという長期的な展望を含めて、ここを押さえておかないといけないという評価項目を優先順位を考えてピックアップされて、限られた時間の中で説明していただくことがいいと感じました。

次は、今日の話を聞いて評価委員の先生方皆さんが思われていることです。ＪＡＢＥＥは、本来ですと、それを受けることについて、システムを作った機構の方が「こういうところにメリットがあって、こうだから。」と説明されるべきものだと思います。しかし、今そうではない現状を伺って、この１０年くらい先生方が必死で頑張られてＪＡＢＥＥを続けてこられたのですが、「そんなにメリットがない。」、「維持するのにも結構大変だ。」、と考えておられるのであれば、どうするかを検討いただいていいのではないでしょうか。それには色々と境界条件があると思います。高専機構という一つの傘の下になった時に、他高専との関係もあるかもしれません。しかし、それを維持するために自分たちの重要な教育や研究に対する時間が割かれるというのであれば、本末転倒です。今後存続するかどうか、維持するかどうかについては、先生方で十分にご再考いただいて、場合によっては、止めると決断するのもありではないかと私共は感じております。ただし、すべてのことに目を配って言っているわけではございません。もう一度、先生方でお考えになればいいのではないかと思いました。これは、我々評価委員会の意見でございます。

最後に、高専というのは、５年一貫という非常にユニークな制度で、最初の和泉先生のご説明にありましたように、途中、大学入試を受けなくていいというのがあるわけです。ですから、普通の高校から大学へ行くというのではないシステム、折角このユニークなシステムがありますので、これを十分に生かした、思い切った取り組みをしていただいてもいいのではないかと思いました。例えばですけれども、大学入試があると、どうしてもやらないといけないことがいっぱいあります。科目だけではなく、内容もどれが入試に出るか分からないので様々なことをやらないといけない。先程英語の話がございましたが、もうちょっと英語を鍛えたいと思っても、どうしても時間がないという時に、時間をやりくりすることが大変になると思うのです。私は、今のグローバル化の中で、英語は重要だと確かに思うのですが、本当はもっと大事なのは国語だと思っています。英語はどんなに頑張っても国語以上にはなりません。私が九州大学の学生を見ても、国語をもっと頑張った方がいいと本当に思っています。ただし、大学の入学生に「国語を何とか頑張れ。」というのはなかなか難しいのです。それはどうしてかと言うと、入試があるので、漢文はやらないといけないですし、古文もやらないといけないわけです。でも、大学入試を受けなくていいのであれば、国語では、論理的な文章をきちんと理解できて、自分でしっかりした文章を書けるということが一番重要な点で、そこが今の若い人たちが能力として劣っているところですので、そういうところに重きをおいた教え方というのができるので

はないか。ひょっとしたら、私が無責任に本当はできないことをできると言っているのかもしれません。でも、５年間というのを活かした取り組みをやっていただくと、おそらく、高専というのは、もっと良くなるのではないかという感じがいたしました。今日、ちょっとお話を伺っただけで、こんなことを言うのは生意気かもしれませんが、私の正直な感想はそういうところでございます。全体として先生方がものすごくご努力されているのは、よく理解したつもりではございますが、そういう外部の意見があるということも、ちょっと頭の片隅に入れて頑張っていただければと思います。

以上が、講評でございます。

閉会挨拶

三川校長：本日は、ご多忙中の折柄、長時間にわたりまして、外部評価を頂戴しまして本当に有り難うございました。

特に、委員長の髙松先生におかれましては、委員会の議事進行とご講評の取りまとめの労をお取りいただきまして、厚く御礼申し上げます。

私は、最初ですね、このテーマ発表で５人の先生方、こちらでは主事と言いますが、先生方にご報告いただくということで、若干、総花的な話になってしまうことが少々危惧され、テーマをちょっと絞ったほうが、ご指摘を受けやすいのかなと思ったのですが、たくさんの論点に関してご指摘を受けました。

事細かに内容は申し上げられませんが、カリキュラムの面とか、今、お話のありましたＪＡＢＥＥですね、それからメンタルヘルスの問題、特別支援教育とか、学生指導の在り方、学生寮についても、意外と関心を持っていただけているんだということで、非常にうれしく思った次第でございます。それから、業務負担の軽減から学校運営の基本方針、武田信玄の言葉ではありませんが、「人は城」、そういう箴言を髙松先生から伺ったということで、非常に有り難く存じた次第でございます。お褒めいただいた点もありましたが、カウンセリング等につきましては、ここのところは少し課題かなと、校長としても思っております。この場に学生相談室の笈木先生がおい出ですけれども、特別支援教育とかカウンセリング等について非常に頑張っておられますが、もっともっと練り上げて全校的な関心を寄せるべき問題ではないかと思っている次第でございます。

それから、長期ビジョンを立てて、そこから細部の問題を詰めていく必要があるのではないかとのご指摘については、非常にごもっともだと思います。校長としても、全教職員のご意見を伺いつつ、教育理念とか教育方針とかございますけれども、時々刻々動いている状況の中で、何が求められているかというのは、構成しているスタッフがその都度判断していくべき問題かと思いますので、そういう投げかけとか、投げかけられるようなことについて取り組んでいく必要があるついてと思っております。

それから、ＪＡＢＥＥの話は非常に有り難く思いました。全５１の国立高専で、１校だけ勇気ある撤退をされた高専がございます。ところが、高専機構の方は眉を潜めているような状況でございます。でも、今日のお話でＪＡＢＥＥのメリットが説明できなければ、やっている意味はないのだということは、全くその通りです。ＪＡＢＥＥインパクトというのがありまして、色んな面で学校が変わりま

した。しかし同時に、ご指摘のようにコスト、これは人事的なコスト、それから、金銭面もあるのですが、そういうものも背負っているような気がいたしますので、そこもきちっと議論して、メリットが有るなら続ける、メリットが無いなら撤退も止むなしということになろうかと思います。他の高専の先生からは、「早く久留米は撤退してくれ。」、「右に倣うから。」と、つい先日そんな話を聞きました。しかし、そこのところは慎重に検討を進めたいと思っております。

それから最後の、５年一貫のシステムでユニークな制度であるので、そこの強みをもっと発揮できる教育内容とか、工夫というのが必要ではないかということで、例えばということで国語についてアドバイスをいただきました。これも非常に有り難く受け止めた次第でございます。その他にもたくさんありまして、私からすると、今日は大漁だなという感じがしました。卑俗な表現で申し訳ございません。

本当にお忙しい中お越しいただいて、貴重なご意見を賜ったことについて深く感謝申し上げます。また、年に１回ではございますけれども、その他の面でも、学校運営、教育・研究に対して、ご協力と適宜ご指導ご鞭撻を何卒宜しくお願いいたします。今日は、本当に有り難うございました。

外部評価の結果

１．評価点

【報 告 事 項 】
（１）前年度の指摘事項について
（２）教育の現状と改善について
（３）ＪＡＢＥＥ教育プログラムについて
（４）学生指導の現状について
（５）学生寮の現状について

	報告事項	髙松委員長	水野委員代理	永田委員	今泉委員	権藤委員	中川委員	長洲委員	平田委員
評　価	総合	5	5	4	5	4	5	5	4
	（1）	5	5	3	5	4	5	5	5
	（2）	5	5	5	5	5	5	5	5
	（3）	5	5	3	5	4	4	5	2
	（4）	4	5	5	5	4	5	5	5
	（5）	5	5	4	5	5	5	5	5

評　価　点	評　　価　　基　　準
5	優れている、または、適切である。
4	やや優れている、または、ほぼ適切といえる。
3	普通。
2	やや劣っている、または、あまり適切といえない。
1	劣っている、または、適切でない。

２．意見・提言

髙松委員長

・５学科すべてで JABEE の認定を受け、それを更新し続けながら学校全体で頑張っておられることに敬意を表します。また、学校行事やその運営においても、上級生が下級生を指導するなど、高専ならではの特長を活かした活動を行っておられ、大変結構だと思いました。
・昔に比べて全国的に不登校が増加している現在、それを少しでも未然に防ぐことは重要です。そういう観点で行っておられるカウンセリングの状況について、どの学年が多いかなどもう少し細かな分析の基に少しでも有効な対策を考えることができればいいのではないかと感じました。
・JABEE の認定とその更新に多大な労力を必要とする一方で、生徒が享受するメリットがあまり明確でない現状に鑑み、その継続についてはもう一度根本的な議論をしてもいいと感じました。場合によっては勇気ある撤退も選択肢の一つであろうと考えます。
・外部評価の項目については、少し吟味いただいた方がいいと感じました。例えば、学生寮の現状についてなどは、状況は良く理解できましたが、評価の対象としてはなくてもいいような気がしました。一方、人事の考え方、方法、管理などは学校運営で最も重要な項目なので、評価の対象とすべきと考えます。
・高専は５年一貫教育という独特の特長を有するシステムですので、その特長を活かした試みをすれば、もっといい人材を輩出できる可能性があると感じました。是非、既存の考え方にとらわれない新しいチャレンジをしていただけたらと思います。

水野委員代理

・先生方が学生指導から研究まで熱心に取り組まれている様子がよくわかりました。一方で、働きすぎを防ぐ仕組みも必要ではないかと感じました。先生個人でも調整できる部分はありますが、組織としても取り組む必要があるのではないでしょうか。余裕のない環境では通常業務に隙ができてしまいます。
・JABEE には良い面と悪い面の両方がある印象を受けました。JABEE 導入によって培った PDCA サイクルによる教育向上の取組みは残しつつ、認定継続に必要な過剰な負担は取り除く決断も必要かもしれません。
・学生会中央執行委員会と学生主事室との合同会議は学生の意見を吸い上げるとてもよい場だと思います。学生からの要望に真摯に向き合っていることがわかりました。また、低学年と高学年の交わりをうまく教育に活かしていると思います。
・男子学生寮が古いので建て替えや補修ができるといいですね。
・九州大学大学院総合理工学府にはこれまでに多くの貴専攻科卒業生が入学し、総じて高い評価が得られています。これからも貴専攻科との絆を太くしていくことができればと思います。また、キャンパスも近いので、共同研究や科研費等への共同申請なども協力して進めて行くことができればよいと思います。よろしくお願いします。

永田委員

・指摘事項の高専として考えている、あるいは、目指しているグローバル化とは何かが、未だに曖昧です。
・授業時間ですが、医学部では 1 年生は、実習以外はすべて 70 分から 50 分授業に変更しました。どうしても時間が必要な講義は 50 分、2 コマです。その方が、学生にとって有益であるとのデータに裏付けされての変更です。

・貴校の JABEE 教育については立派に義務を果たされていると評価します。しかし、機構としての達成度審査、あるいは、資格審査などの制度がないのが問題であると思います。
・教師は大変な負担を強いられていますが、十分な学生指導が出来ていることに敬意を表します。
・男子寮は昭和 42 年竣工で老朽化が懸念されます。女子寮は立派ですが、30 室しかないのが残念です。寮に関しては、すべてを外部委託することを検討しても良いのと思います。

今泉委員
・適切に対応しておられる。特に、PDCA サイクルが機能していることは素晴らしい。
・専門課程で退学者（留年者）が増える傾向にありますが、それに対する具体的な対応策は実施されているのでしょうか。
・学外での学習指導効果を高めるために、情報システムとしてスマホなどの導入は如何でしょうか。
・平成16年から始まったJABEEプログラムについて再検討の時機にあるのではないでしょうか。
・高専ならではの丁寧な学生指導が行われていますが、高校＋大学ではできない人材育成の具体的なイメージを示して頂きたい。
・適切に運営されていると思います。

権藤委員
・毎回、委員会のためにご準備いただく資料の多さには感心しています。ありがとうございます。
・前年度の指摘事項については、全国の高専機構との絡みがあり、なかなか難しいこともあると思われますが、特色ある学校づくりや学校の課題解決のために、時間割など柔軟に対応された方がいいのではないかと考えます。
・昨年度の外部評価委員会では、「グローバル人材の育成」に向けてという、これからの久留米高専の展望を考えるような内容もありましたが、今回の評価議題には、そのようなものがなく寂しく思いました。これからの久留米高専の長期的な展望とそのための戦略あたりが議論できれば良かったと思います。
・「学生指導の現状について」では、もっとカウンセリングと不登校については、実態把握の意味からも詳細なデータの提示が必要と思われます。
・久留米高専において、「スクラップ＆ビルド」の精神で、そのまま継続、改善しながらも存続させることと、きっぱり廃止すべきことを分類し、教育活動内容の精選を行われるといいと思います。限られた時間ですので、その時間の中で、久留米高専として何を優先すべきかを判断されるといいと思います。

中川委員
・教育の現状と改善について、一日体験入学で参加者と高専生が直接会話し交流できる仕組みは非常に素晴らしいと感じました。弊社も採用活動ではコミュニケーションを重視しています。志願倍率の維持向上への努力を評価します。
・ＪＡＢＥＥ教育プログラムについて、５プログラムの維持・継続に多大な努力を払われている事に敬意を覚えました。また、将来の負荷と経費の増大に苦慮されている現状も理解できました。今後は費用対効果の分析も試みられ、プログラムの維持向上を学校の価値から再考してみる事も必要かと思いました。
・学生寮の現状について、施設の運営管理はしっかりとした内容で維持され大変安心できるレベルだと思いました。
・部屋数の制限で一部の女子学生で利用希望に応じられない事態がありますが、学生へのフォローをお願いします。

長洲委員

・今回、前任者の後を受ける形で、初めての参加でしたが、貴校にてさまざまな課題解決に向けて熱心に取り組んでいることに感銘を受けました。その一方で、課題の豊富さに比例する形で、学校教職員の皆様へ負荷増大する事が気になりました。課題の取捨選択や、取組み内容の絞込みなどを実施しないと、長時間労働などの課題が出てくるように思います。昨今では、少子高齢化対策や多様性推進の観点で「働き方改革」が叫ばれています。意識改革も必要ですが、日常的な業務改善の取組みが必要と思います。具体的な例で申し上げますと、今回の会議資料に関しましても、書類量が非常に多く感じました。資料の必要性などを見極めていただき、枚数削減を検討いただいたらどうかと思います。資料によっては、配布せずに当日の映写のみでもよいものもあると思います。どうぞ宜しくお願い致します。

平田委員

・全体的な取り組みについては問題なく,適切に計画・実施されていると考えられ、久留米高専の理念にあった学生を育成していることは評価できる。
・ただし、JABEE 教育プログラムについては、実施効果が明確でなく、取り組み自体の必要性が理解できなかった。今後の展開については十分な検討を要すると感じた。

説明資料

前年度の指摘事項について

校長補佐／企画主事　　江　崎　昇　二

資料1－1

平成26年度　外部評価委員会

評価分類	指摘概要
A	改善継続
B	グローバル人材教育の達成目標と評価方法設定
C	英語力の達成目標設定
D	英語授業50分週4回化
E	大学、大学院との連携強化
F	海外留学時の休学回避

2

Ａ　継続改善（平成２５年度 指摘事項）

・一日体験入学アンケート項目の見直し

一日体験入学を何により知ったかについての項目を追加した.

・学生の授業評価アンケート項目の見直し

JABEE基準改定（チームで仕事をするための能力）に伴う事項を追加した

3

Ａ　継続改善（平成２５年度指摘事項）

・本科・専攻科進路の県内・県外割合把握、公開

本校HP→情報公開→教育研究情報→
【４】学生に関する情報（第172条の2第1項第4号関係）
→・進学就職先一覧　に過去5年間を掲載

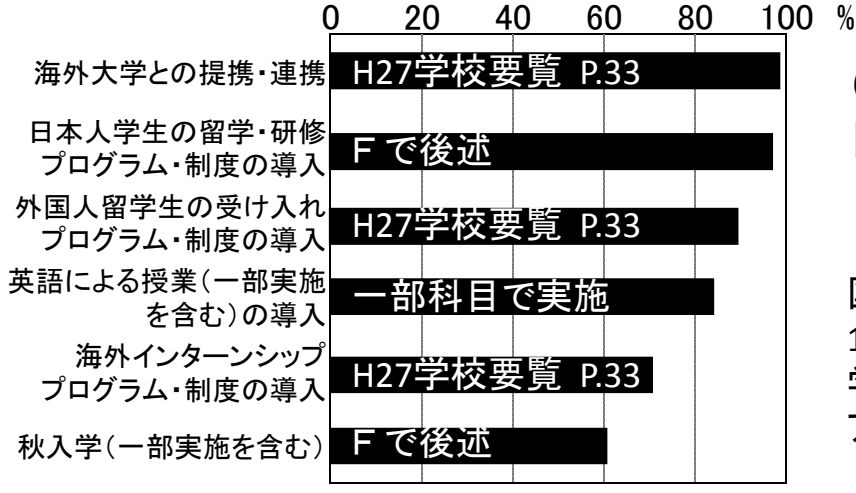
・大型設備を有効活用するための方策検討

・九州沖縄9高専が連携して研究設備のリスト作成
・本校産学民連携テクノセンター報で主要研究機材紹介
・九州大学水素関連研究へ研究員として派遣し大型設備を利用

4

Ｂ　グローバル人材教育の達成目標と評価方法の導入検討

グローバル人材育成の主な取り組み策　（複数回答）



（参照）
日経新聞
H27.11.4

国公私立
157大学
学長（理事長）
アンケート

5

Ｃ　英語力の達成目標の導入検討
（平成29年度専攻科入試から）

<u>学力選抜：英語試験</u>
　TOEIC（TOEIC IP含む）スコア採用
　（100点換算し学力試験を行わない）
<u>推薦選抜</u>
　TOEIC（TOEIC IP含む）スコアの願書記載

<u>教科としての目標化については検討中。</u>

6

D　英語授業50分週4回化の導入検討

平成27年度 前期　2年材料工学科　時間割

時限	月	火	水	木	金
1 (100分)	情報処理Ⅰ	物理	基礎 材料化学	数学ⅡA	世界史
2 (100分)	数学ⅡB	体育Ⅱ	化学Ⅱ	英語Ⅱ 国語Ⅱ	国語Ⅱ 英語演習Ⅱ
3 (100分)	材料 加工実習	数学ⅡA	H. R.	物理	化学実験
4 (100分)	国語Ⅱ 英語Ⅱ	英語演習Ⅱ 国語Ⅱ	政治・経済		

7

D　英語授業50分週4回化の導入検討

・現状本校　：　1校時＝100分
　他教科と合わせた50分×2への分割可能

・九州沖縄ブロック 9高専 校時 統一検討中
　：　1校時＝ 90分

45分×2は不可
→　一部100分授業導入等を検討中

8

E　大学、大学院との連携強化の方策検討

先端工学特論（専攻科1年後期 必修1単位）

［昨年度まで］

大学院特別講義:5回＋放送大学or学外講演聴講:10回

［今年度］

大学院特別講義:12回＋放送大学or学外講演聴講:3回

専攻科インターンシップ（専攻科1年前期 選択2単位）

学校名	H23	H24	H25	H26	H27
九州大学大学院総合理工学府	0名	0名	1名	10名	5名
九州工業大学	1名	0名	0名	0名	1名
早稲田大学大学院	0名	1名	0名	1名	0名

F　海外留学時の休学回避の可能性検討

	4月	4月	4月	
通常進級	3年生	4年生	5年生	

	4月	7月	4月	7月	4月
特例なし	3年生	留学（休学）	3年生（履修時間不足）		3年生
特例適用	3年生	留学（休学）	3年生（前年度分引継ぎ）		4年生
留年回避	3年生	留学（単位互換）	4年生		5年生

・全教科単位互換可能な留学先の開拓

・秋入学や4学期制導入の検討

資料1－2

本校PDCAサイクル

学校全体PDCAサイクル

Plan　：企画委員会
Do　：各実行部署
Check　：自己評価検討委員会
Action　：各実行部署

自己点検評価書

	外部評価
毎年 ↔	外部評価委員会
5年毎 ↔	JABEE（H24中間審査）（H24～26認定）
7年毎 ↔	機関別認証評価（H25受審）
7年毎 ↔	教育実施状況審査（H27受審）
↔	監事監査（H25受審）

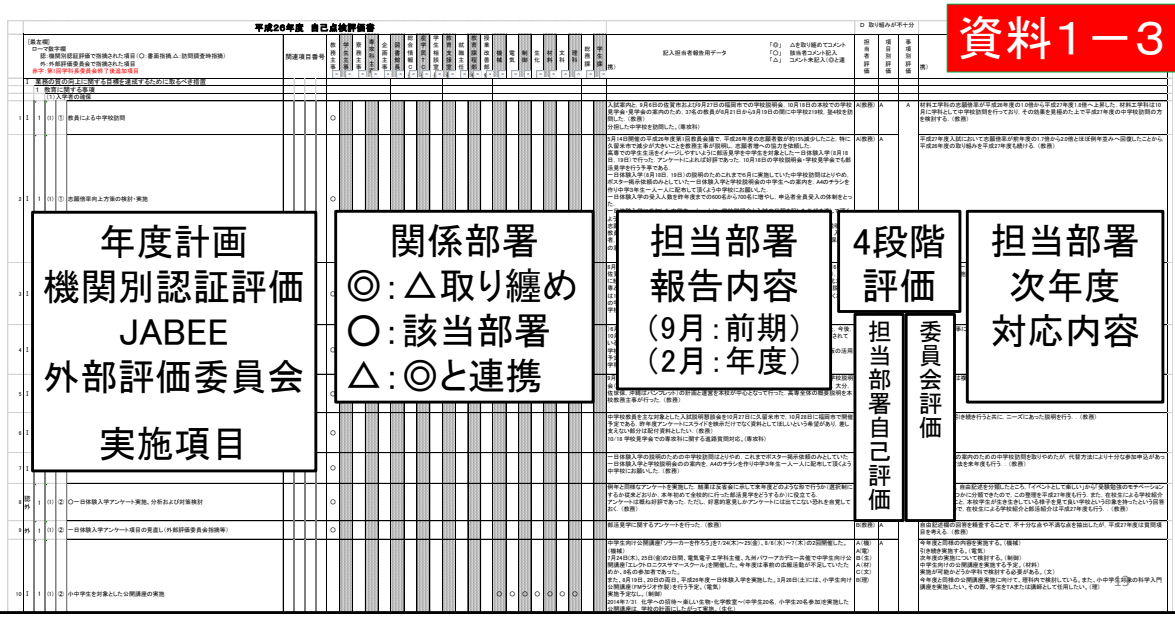
企画委員会 ↓　↑ 自己評価検討委員会

各実行部署PDCAサイクル

Plan　：各主事 等
Do　：各担当委員会 等
Check　：各主事室 等
Action　：各担当委員会 等

平成26年度 自己点検評価書（本校HP公開）

資料１－３



平成27年度 自己点検評価書 抜粋

9	外	1	(1)	A	一日体験入学アンケート項目の見直し（H25外部評価委員会）
45	外	1	(2)	A	学生の授業評価アンケート項目の見直し検討（H25外部評価委員会）
96	外	1	F	⑤	大学、大学院との連携強化の方策検討
109	外	1	B	⑩	グローバル人材教育の達成目標と評価方法の導入検討
110	外	1	C	⑩	英語力の達成目標の導入検討
111	外	1	D	⑩	英語授業50分週4回化の導入検討
112	外	1	E	⑩	海外留学時の休学回避の可能性検討
200	外	1		A	本科・専攻科進路の県内・県外割合把握、公開（H25外部評価委員会）
290	外	4		A	大型設備を有効活用するための方策検討（H25外部評価委員会）

説明資料

教育の現状と改善について

副校長／教務主事　　和　泉　直　志

教育の現状と改善について

教務主事・副校長

和泉直志

内容

1．学校の概況
　高専制度・学生数・教職員数

2．出口と入口
　進路状況・入試状況

3．課題と改善
　留年/退学・授業アンケート・FD会議

4．高専機構の進める教育改善
　アクティブラーニング・ICTの利用
　モデルコアカリキュラム・Webシラバス

5．高専を取り巻く状況

6．まとめ

高専では技術者になるための「専門の技術・知識」を学ぶ!

KOSEN NAVI

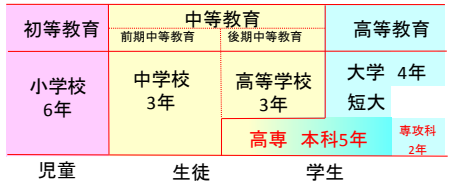
高校（3年）＋大学（4年）＝高専（5年）を目指しています!

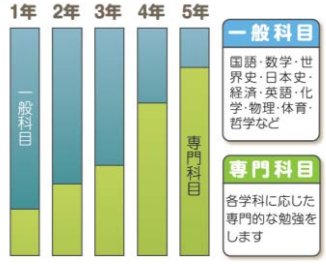
●1～3年生から、大学と同じような専門科目を学びます。

●いわゆる“受験勉強”がないので、効率的な学習ができます。

●実験・実習・卒業研究などの時間は大学の約2倍もあります。

1年生から専門教育を少しずつ増やしていく「くさび型教育」方法。これによって一般科目と専門科目をバランスよく学び、4年制大学とほぼ同レベルの専門知識が得られます。





高専は15才で入学できる 工学部

学術 と **ものづくり** とを巧みに結びつける優れたセンスと，そこから生まれるアイディア（発想）を実践する力に裏打ちされた **技術者魂**

⇒ 高専スピリッツ（小畑 高専機構理事長）

在校生数・教職員

2015.4 .1 ()は女子で内数

本科

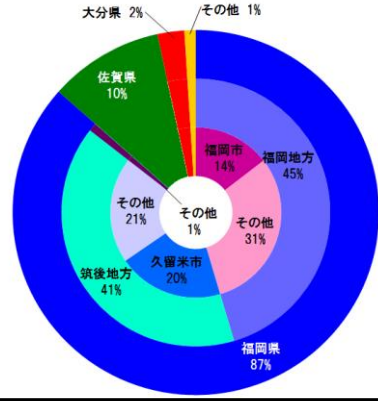
学　科	入学定員	総定員	現員 1年		2年		3年		4年		5年		計	
機械工学科	40	200	40	(2)	42	(0)	49	(0)	43	(0)	46	(3)	220	(5)
電気電子工学科	40	200	41	(4)	41	(2)	41	(6)	40	(6)	46	(2)	209	(20)
制御情報工学科	40	200	41	(8)	42	(8)	44	(5)	43	(3)	38	(4)	208	(28)
生物応用化学科	40	200	43	(12)	39	(22)	50	(27)	35	(19)	36	(20)	202	(100)
材料工学科	40	200	41	(12)	41	(11)	46	(14)	41	(9)	36	(10)	205	(56)
計	200	1000	206	(38)	205	(43)	230	(52)	202	(37)	202	(39)	1045	(209)

専攻科

専　攻	入学定員	総定員	現員 1年		2年		計	
機械・電気システム工学専攻	12	24	20	(1)	18	(0)	38	(1)
物　質工学専攻	8	16	13	(4)	12	(2)	25	(6)
計	20	40	33	(5)	30	(2)	63	(7)

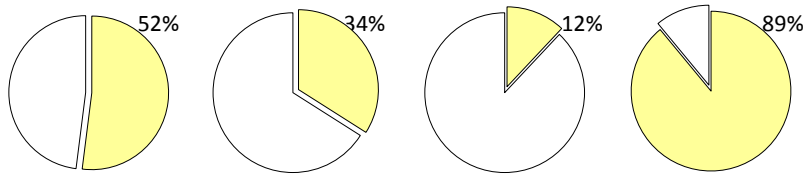
留学生

出　身　国	受人数 1　年	2　年	3　年	4　年	5　年	計
インドネシア			1	1		1 (0)
マレーシア			2 (1)	3		5 (1)
バングラデシュ					1	1 (0)
ガボン共和国			1			
計			4 (1)	4 (0)	1 (0)	9 (1)



教員構成

教員の経歴・学位



他教育機関　民間企業・研究機関　海外での教育・研究　博士号（専門学科）

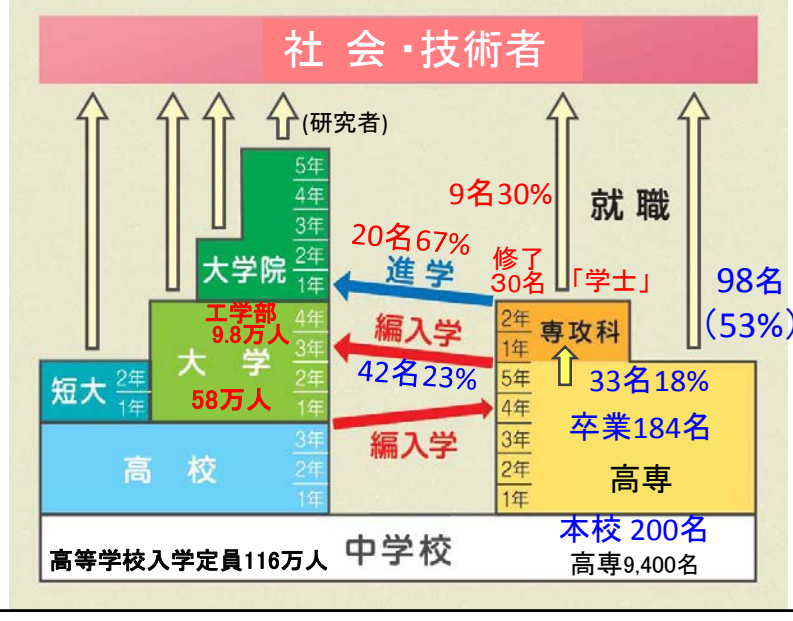
	教育職員					
	校長	教授	准教授	講師	助教	計
定員	1	36	35	0	7	79
現員	1	27(2)	37(2)	1	12 (1)	78(5)
一般文科		2(2)	7		3[1]	12(2)
一般理科		3	6(1)		2	10(1)
機械		4	6		1	11
電気電子		3	4(1)	1	2	10(1)
制御情報		4	6		1	11
生物応用化学		6	4		2(1)	12(1)
材料		5	4		1	10

技術職員	事務職員	合計
45		124
16	29	123

( )は女性・内数　[ ]は再雇用フルタイム教員
再雇用短時間雇用教員 一般文科 1，機械 2

卒業/修了後の進路

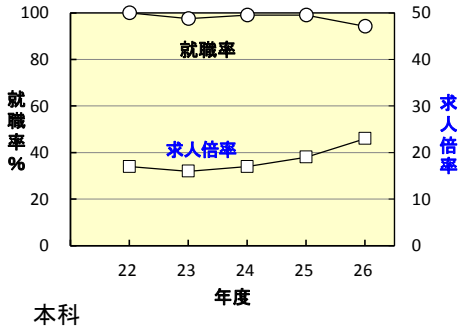
数字は2015.3 卒業・修了



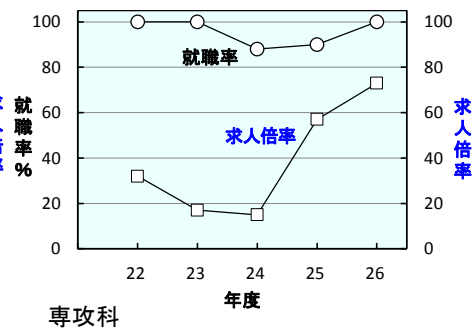
求人・就職状況

学校要覧　P.31

本科



専攻科



本科

年度	就職希望者	求人数	求人倍率	就職率
22	108	1,803	17	100
23	124	1,932	16	98
24	105	1,785	17	99
25	116	2,185	19	99
26	104	2,416	23	94

専攻科

年度	就職希望者	求人数	求人倍率	就職率
22	16	505	32	100
23	29	483	17	100
24	33	483	15	88
25	10	573	57	90
26	9	657	73	100

平成26年度本科卒業生　就職 98名
電気ガス6 製造業71 情報通信3 運輸1
学術開発研究1 サービス10　その他6

本科卒業生　編入学先　平成23～平成26年度

年度	23	24	25	26
長岡技科大	2	3	6	2
豊橋技科大	7	8	9	6
東北大学				
筑波大学	2	2	1	2
千葉大学		1	1	1
東京大学	1	2		
東京工業大学	1	1	4	3
東京農工大学	1		2	
横浜国立大学	1		1	1
首都大学東京		2	1	1
名古屋大	1			2
京都大学				
大阪大学	1	2		
神戸大学	1			1
広島大学		2	1	1

年度	23	24	25	26
九州大学	8	7	7	5
九州工業大学	8	11	6	5
佐賀大学	2	7	2	
熊本大学	2	3	5	6
宮崎大学		1		
鹿児島大学		1		1
琉球大学		1		1
福岡大学	1			
九州造形短大		1		
大学合計	43	57	50	42
本校専攻科	31	28	30	33

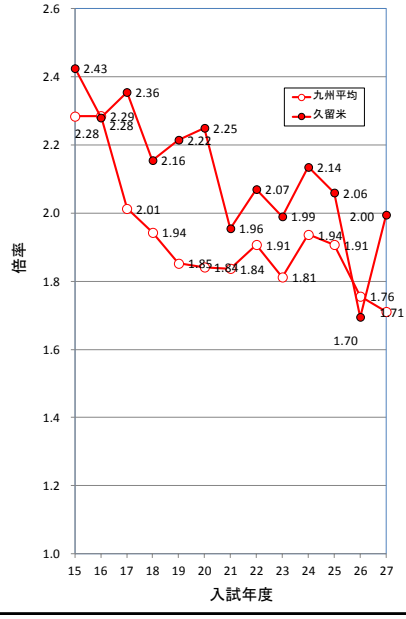
学校要覧　P.31

専攻科修了生　進学先　平成22～平成26年度

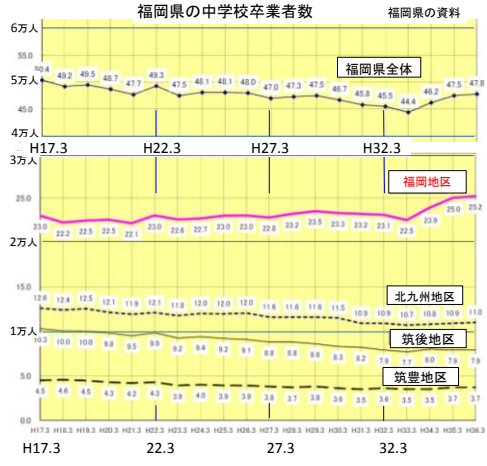
年　度		22	23	24	25	26
国立	長岡技術科学大学大学院	1			1	
	豊橋技術科学大学大学院					
	北陸先端技術科学大学大学院				2	
	北海道大学大学院			1	1	
	東北大学大学院					
	東京大学大学院		1	1	1	
	東京工業大学大学院	3	2	1	4	1
	筑波大学大学院		1	1		
	名古屋大学大学院	1				1
	京都大学大学院			1	1	2
	九州大学大学院	10	5	9	5	15
	九州工業大学大学院		3	1	4	1
	情報科学芸術大学院大字	1				
私立	早稲田大学大学院	1			3	
合　計		17	12	15	22	20

学校要覧　P.31

入学志願状況



入試年度	21	22	23	24	25	26	27
機械工学科	1.8	2	1.5	2.1	2.3	1.5	1.7
電気電子工学科	1.5	1.8	2.2	2.4	1.6	1.6	1.8
制御情報工学科	1.8	2.1	2.1	2.3	2.7	2.2	2.7
生物応用化学科	3.4	2.9	2.6	2.3	2.5	2.2	2.0
材料工学科	1.2	1.5	1.6	1.6	1.2	1	1.8
倍率	2.0	2.1	2.0	2.1	2.1	1.7	2.0
志願者	391	414	398	427	412	339	399
推薦志願者	111	109	110	128	131	95	94



本科入試日程・入試広報

推薦　願書受付　H28.1.12(火) - 1.15(金)
　　入学試験　H28.1.23(土)
　　結果発送　H28.1.29(金)

学力　願書受付　H28.2.1(月) – 2.4(木)
　　入学試験　H28.2.21(日)
　　（マークシート方式）
　　合格発表　H28.2.29(月)

入学手続き　公立高校入試日（3.8）

学　科　名	募集人員	うち推薦による募集
機 械 工 学 科	４０名	８ 名 程 度
電気電子工学科	４０名	８ 名 程 度
制御情報工学科	４０名	８ 名 程 度
生物応用化学科	４０名	８ 名 程 度
材 料 工 学 科	４０名	８ 名 程 度

H27.6　中学校宛資料送付
　　（一日体験入学ほか入試広報）

H27.8. 18(火), 19(水)
　　久留米高専一日体験入学（584名）

H27.9.　5(土)　久留米・有明・佐世保合同説明会
　　（佐賀市　全体66名 本校41名）

H27.9.中旬　中学校訪問（教員37人 218校）

H27.10.4 (日)　福岡3高専合同学校説明会
　　（福岡市 全体191名 本校122名）

H27.10. 17(土)　塾主催中学高校進路相談会
　　（糟屋町）

H27.10. 17(土)　学校説明会・見学会（本校 349名）

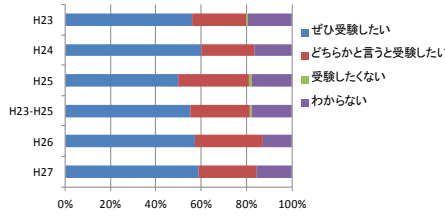
H27.10. 26(月)　入試説明懇談会（本校 先生56名）
H27.10. 27(火)　入試説明懇談会（福岡市 先生30名）
H27.10. 28(水)　入試説明懇談会（佐賀市 先生12名）

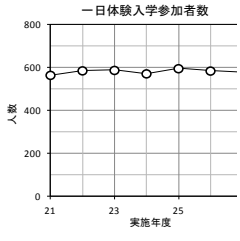
H27.11. 3(火祝)　進路相談会（高専祭文化祭）

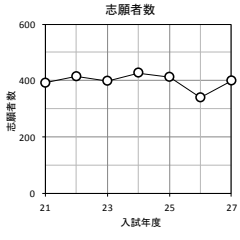
H27.11. 14(土)　学校説明会（本校 96名）

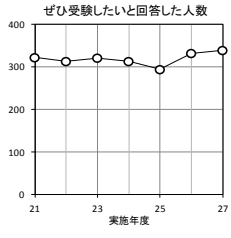
一日体験入学（オープンキャンパス）

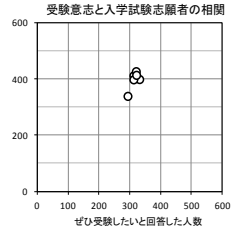
平成27年8月18/19日　45分×7コマ　定員350名×２日
専門5学科，高専生との交流（文科），マークシート説明（理科）









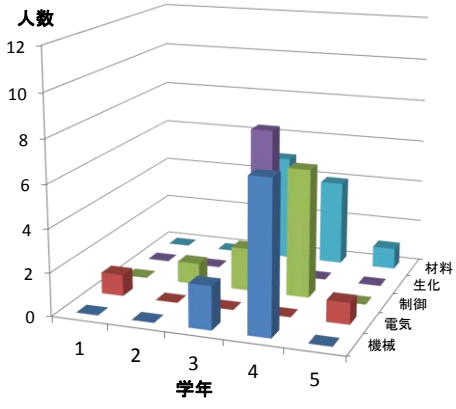


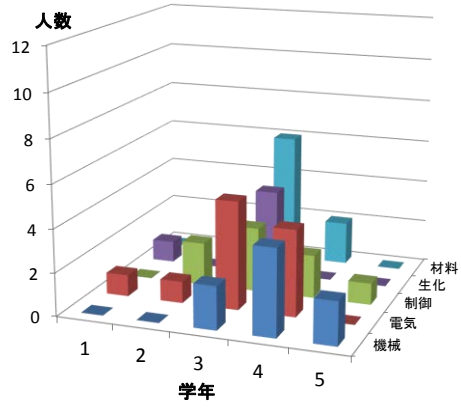
一日体験入学（オープンキャンパス）

保護者の方の本校在学生に対する印象

- 生徒が一人一人自立していると思った。見学に来なければ分からない事が多くあり参加して良かったと思う。
- 学生の皆さんが生き生きされていて、とても感じが良かったです。
- 科によって雰囲気も違うのを実際体験させていただき、すごく良かったです。先生や学生の方もすごく話しやすく、学校が楽しいんだ ろうと思えました。
- 今日いらした学生の皆さんがイキイキとしっかりされていて驚きました。学科によって個性があるんですね。

留年者数,退学者数（H26年度）





	1	2	3	4	5	
機械	0	0	2	7	0	9
電気	1	0	0	0	1	2
制御	0	1	2	6	0	9
生化	0	0	7	0	0	7
材料	0	0	5	4	1	10
						37

	1	2	3	4	5	
機械	0	0	2	4	2	8
電気	1	1	5	4	0	11
制御	0	2	3	2	1	8
生化	1	0	4	0	0	5
材料	0	0	6	2	0	8
						40

A高専 2～3%／1～1.5%

授業の改善　学生による授業アンケート

A.　あなたはこの授業にどのように取り組みましたか。（複数選択可）

[1]	熱心に説明を聞いた。
[2]	ノートやメモをとった。
[3]	分からないところを先生へ質問した。
[4]	予習や復習をした。
[5]	関連する内容を自主的に勉強した。

B.　あなたはこの授業をどのように思いましたか。（複数選択可）

[1]	シラバスは参考になった。
[2]	教科書、プリント、指導書等の教材が適切であった。
[3]	演習（実験・実習）や課題（レポート）の内容はよく工夫されたものであった。
[4]	先生は十分に準備をしていた。
[5]	先生は熱意をもって行っていた。
[6]	質問をしやすくするなど、双方向性をもたせる工夫があった。
[7]	全体の構成は適切であった。
[8]	内容に興味をもてた。
[9]	学習する力がついたと思う。
[0]	総合的に良い授業だったと思う。

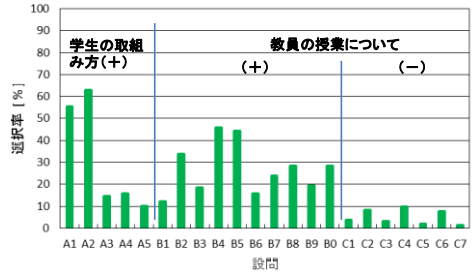
C.　この授業について要望があれば選んでください。（複数選択可）

[1]	先生の声を聞き取りやすくしてほしい。
[2]	板書を読みやすくしてほしい。
[3]	演習（実験・実習）や課題（レポート）の内容を工夫してほしい。
[4]	もっとわかりやすく説明してほしい。
[5]	もっと質問の機会を増やしてほしい。
[6]	レベルをもっと低くしてほしい。
[7]	レベルをもっと高くしてほしい。

D.　実験・実習の授業のみ、該当するものを選んでください。（複数選択可）

[1]	実験・実習にふさわしい服装（作業着、保護メガネ、手袋等）であった。
[2]	機器・器具に興味をもった。
[3]	機器・器具の操作が難しかった。
[4]	機器・器具・試薬等の取り扱いに配慮した。
[5]	指導書がわかりにくかった。

授業について感じたり思ったりしたことがありましたら、以下に記入してください。



学生による授業アンケートの総括

平成26年度

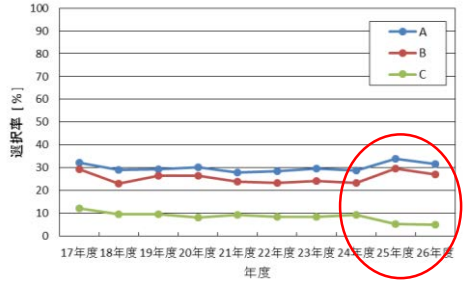
学生による授業評価アンケートおよび
授業改善に関する教員アンケート結果報告

平成27年9月

久留米工業高等専門学校
授業改善専門部会

精密加工学（４年）

全体として不評．説明を熱心に聞いた61%とまずまずだが，ノート・メモをとった12%．授業はPPTで行っており映示資料は説明に集中できるよう配付しているのが逆効果で気が緩んだのか．それにしては教材の評価が32%というのが残念．



教員の能力向上　FD会議

H27.12
「成績評価の厳密化と効率化を実現するルーブリック」
愛媛大学　教授　井上 敏憲 先生

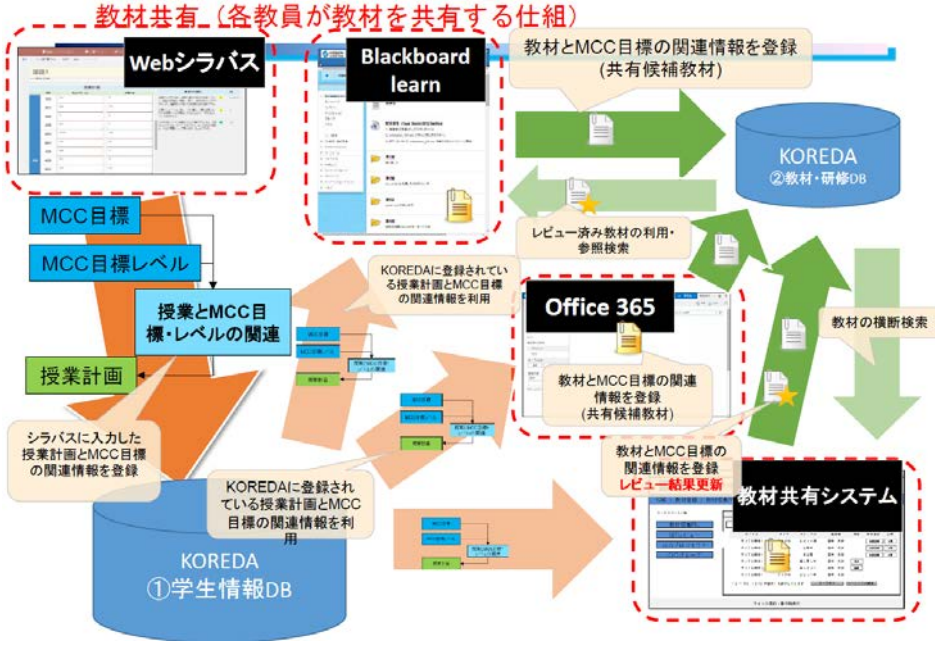
H27.6
「アクティブラーニングについて」
九州大学　基幹教育院　准教授　山田 政寛 先生

H27.2
「発達障害の理解と支援」
久留米高専　カウンセラー　臨床心理士　多田 泰裕 先生

H26.12
1．英語授業講義力強化プログラムの報告
　　田中　大　准教授（機械），小田　幹雄 准教授（制御）
2．クラス経営・生活指導研修会の報告
　　周　　致霆　准教授（材料）

H26.6
「本校学生の学力の現状と課題（対策）」
(1)　外部評価テスト，新入生診断テスト，学習到達度試験等の結果報告
　　久留米高専　一般文科，一般理科
(2)「本校における数学補習指導の取組」
　　一般理科　数学教室　　酒井道宏　准教授

学習指導のための情報システム



高専を取り巻く状況

・実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の制度化に関する特別部会
　文科省 中央教育審議会に設置　部会長　永田恭介 筑波大学長
　第1回H26.5～第7回H26.11
・高等専門学校を考える議員連盟（高専議連）　会　長　河村 元文科大臣 .
　第1回H26.5～第6回H26.7　副会長　馳 文科大臣
・高等専門学校の充実に関する調査研究協力者会議
　文科省高等教育局所管　座長　三島 良直 東京工業大学学長
　第1回H27.5～第6回H26.12

第5ブロック　教育・FD協働共有化推進WG

協働共有事項	対応策	具体の実施項目
高専間の連携による教員の業務負担軽減	協働講義の実施	校時の統一・セメスター制
		ICT等を用いた協働講義方法の開発
	ICT等を活用した教材の協働開発	e-learning教材等の協働開発
	教員の担当授業数を低減させるための協働検討	長期インターンシップの導入
		効果的なカリキュラムの検討
		海外大学等との単位互換
教員の教育力の向上	教育力向上のための効果的なFDの協働実施	協働FDの実施

まとめ

1．学校の概況　40名・5学科・5学年＋専攻科30名・2学年=1100名
　筑後40%，福岡45%，女子20%．教員78名+職員45名
2．進路状況　就職60% →高い求人倍率．技術者として就職
（本科）　進学40%＝25%大学編入(九大ほか全国へ)
　＋15%専攻科
（専攻科）　進学が60%を超える傾向．九大を中心に有力大学院へ
3．入学志願者　志願倍率2倍 → 中学生数減に対し様々な広報活動
4．本校の学生　生き生きと楽しそう．
5．改善課題　留年者・退学者数
　授業アンケートによる授業改善・改善校調査
　（老朽施設の改修）
6．高専機構の進める教育改善
　ICTの利用・アクティブラーニング・モデルコアカリキュラム
　Webシラバス → 教務委員会やFD会議等で理解・実行
7．高専を取り巻く状況
　国の財政事情，少子化，専修学校の大学化，

説明資料

ＪＡＢＥＥ教育プログラムについて

校長補佐／専攻科主事　　池　田　　隆

久留米高専におけるJABEE 教育プログラムについて

JABEE：日本技術者教育認定機構
(Japan Accreditation Board for Engineering Education)

専攻科主事　池田　隆

平成27年12月10日

1

1．JABEEについて

2．本校でのJABEE認定受審

3．5つのプログラム

4．教育プログラムの運用

5．まとめ.

6．今後の課題

2

1. JABEEについて

一般社団法人日本技術者教育認定機構(JABEE)

大学等の高等教育機関の工農理系学科で行われている技術者育成に関わる教育の認定をする。

国際的に通用する技術者の育成を目的:1999年設立。

JABEEの認定制度は、任意の第三者認定制度で、工農理系学協会と連携して審査。

学生個人の資格認定や教育機関の認証評価ではなく、

内容と水準が国際的に通用する技術者の教育として適切かどうかの視点から行う教育プログラムの認定。

技術者教育の分野で国際的な同等性を確保のため、JABEEは技術者教育認定の国際的枠組みに加盟。エンジニアリングではワシントン協定、情報系ではソウル協定、建築ではUNESCO-UIAに加盟し、それらの協定の考え方に準拠した基準で審査。ワシントン協定は一国一団体の加盟が認められており、我が国からはJABEEが2005年に加盟。

（出典:Webページ　http://www.jabee.org/about_jabee/ より抜粋）

3

JABEEによるプログラム認定の目的

1.技術者の質の保証

2.優れた教育方法の導入を促進

3.技術者教育の評価方法を発展させる。

4.PDCAによる組織的な教育改善を促進

5.教育に対する貢献の評価

（2015年度　JABEE審査員研修会資料「認定制度の考え方と基本方針2015年度版」、P14の要約）

4

プログラム認定の利点

（http://www.jabee.org/about_jabee/merit/
JABEEと認定制度/「認定のメリット」を要約）

- 第三者認定：教育機関は社会に対して学習・教育到達目標を公表し、説明責任（accountability)を果たすことが求められる。また、教育が教員個人でなく、学科などの組織体として責任を持つことになる。この第三者認定を受けたという事実。
- 認定を通じて、教育の改善がなされる。
- JABEE認定基準は技術者教育認定機関の世界的枠組みであるワシントン協定等の考えに準拠して作られているので、JABEE認定プログラムは国際的同等性が保証されています。
- JABEE認定プログラム修了生は国家試験である技術士資格試験の第一次試験が免除。

5

2．本校でのJABEE認定受審

平成16年度　5教育プログラムが新規認定

以下の5プログラムが認定を取得

◎機械工学プログラム

◎電気電子工学プログラム

◎制御情報工学プログラム

◎生物応用化学プログラム

◎材料工学プログラム

本科上級学年と専攻科のカリキュラム

6

JABEE認定受審の経過

- 平成12年度 5学科が個別プログラムでの申請を決定
- 平成14年度 機械工学科の試行審査
- 平成16年度 5教育プログラムが新規認定審査
- 平成18年度 5教育プログラムが中間審査
- 平成21年度（2009年度基準）の継続認定審査
- 平成24年度（2009年度基準）の中間審査
- 平成27年度（2012年度基準）2回目の継続審査受審

平成16 年度以降5プログラム認定を維持

全国高専の多くが工学一般分野のプログラム認定であるのに対し、本校では複数部門の学協会に対応。

7

JABEE認定の位置づけ(本校)

- 外部評価委員会（学校全般）
- 機関別認証評価
  （本科・専攻科ごとに独立として評価）
- 高専機構　監事監査・内部監査（学校全般）
- 認定専攻科に係る教育の実施状況等の審査
- JABEE認定
  学士課程の工学教育（専門分野）
  本科4年、5年（一部3年）と専攻科を併せて認定
- 特例適用専攻科における教育の実施状況等の審査

8

JABEE認定の位置づけ(高専機構)

現在

高専機構の中期計画（平成26年度～30年度）

（4）教育の質の向上及び改善のためのシステム

①～⑨のうち、

②実践的技術者養成の観点から、在学中の資格取得を推進するとともに、日本技術者認定機構によるプログラム認定等を活用して教育の質の向上を図る。と明記。

9

中期計画に従う年度計画での展開

高専機構の年度計画（H26）（H27）

（4）教育の質の向上及び改善のためのシステム

① ～⑨のうち、

②JABEE認定プログラムの更新を行うとともに、教育の質の向上に努める。また、在学中の資格取得について調査し、各高専に周知する。

本校　平成27年度　継続認定審査を受審

5プログラム同日審査方式

11月8日（日）～10日（火）に実地審査

10

3. 5つのプログラム

他高専での教育プログラム

JABEE公開分:JABEE認定プログラム2015年4月現在

認定を受けたプログラム数	高専数	高　専　名
1	34	旭川、阿南、有明、石川、一関他省略
2	6	宇部、熊本、仙台、津山、富山、米子
3	2	呉、高知
4	3	**沖縄、香川、新居浜**
5	2	**久留米、豊田**

本校の教育プログラム

⇒5学科対応で本科4年（一部3年）、5年と専攻科2年
特例適用認定専攻科での学位申請と対応

従来の認定専攻科修了見込み者に対する学位申請
10月初めに修了見込みで申請手続き
（本科、専攻科全部の取得及び取得見込み単位を記載）
12月中旬に筆記試験（2月に結果通知）
2月末～3月に単位取得証明　全て条件を満足で学位

特例適用認定専攻科の認定　（平成27年4月1日適用）
10月申請時に履修計画書、**12月の筆記試験なし**、
専攻科修了確定後、総まとめ科目のまとめ提出で学位授与。
大学課程相当の本科（4年、5年が主）と専攻科科目

⇒学科との対応必須

⇒JABEEの5つの教育プログラムが良く対応

13

特例適用認定専攻科
平成27年度専攻科研究論文題目数
（2年生必修、学修総まとめ科目）

専　　攻	学士申請での専攻の区分	平成27年度課題提示領域数	
機械・電気システム工学（学年定員12人）	機械工学	13	38
	電気電子工学	15	
	情報工学	10	
物質工学（学年定員8人）	応用化学	13	22
	材料工学	9	

14

4. 教育プログラムの運用

JABEEが教育プログラムに求める基準

- 基準1　学習・教育到達目標の設定と公開(Plan)
- 基準2　教育手段(Do)
  （教育課程の設計/学習・教育の実施/教育組織/
  入学、学生受け入れ及び異動の方法/
  教育環境・学生支援）
- 基準3　学習・教育到達目標の達成(Check)
- 基準4　教育改善(Act)
  （教育点検/継続的改善）

審査では受審プログラムごとに
JABEE基準に対する適合性を根拠を示して
立証し評価を受ける　（A /C /W /D ）

15

教育プログラム毎に運用

JABEE基準1～4を満足
カリキュラムでの科目設計、達成度評価、
最終的にすべての学習・教育到達目標を達成
した者、当該JABEEプログラムの修了者に。

各プログラムで修了要件等を規定。

JABEE委員会

修了者には、プログラムの修了証書（和・英併記）を交付。
プログラムの点検と継続的改善

16

JABEE委員会規則抜粋

第1条　久留米工業高等専門学校の日本技術者教育認定機構が認定する技術者教育プログラム（以下「JABEEプログラム」という。）に関する事項並びに受審に関わる事項を審議するため、JABEE委員会を置く。

JABEEプログラムに関する次の事項を審議する。

(1) JABEEプログラム認定申請（中間審査及び認定継続審査の申請を含む）に関する事項

(2) JABEEプログラム受審準備及び受審対応に関する事項

(3) JABEEプログラム修了に関する事項

(4) JABEEプログラムの点検と継続的改善に関する事項

(5) その他JABEEプログラムに関し必要と認められる事項

JABEE委員会で修了の確認、各プログラムを相互に点検し更に継続的改善を図る。

17

プログラムの例
基準1　学習・教育到達目標の設定と公開

基準1（2）(a)～(i)に関し個別基準に定める事項考慮されていること

(a)地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養

(b)技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任に関する理解

(c)数学及び自然科学に関する知識とそれらを応用する能力

(d)当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力

(e)種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力

(f)論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力

(g)自主的、継続的に学習する能力

(h)与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力

(i)チームで仕事をするための能力

18

学習・教育到達目標の例（生物応用化学プログラム）

（A）技術者倫理と多面的視野

（A－1）技術者として必要な倫理観を身に付け、管理能力、社会に対する説明責任能力を習得する。

（A－2）地球的規模で環境を考え技術をデザインする能力を習得する。

（B）生物応用化学基礎と工学基礎

（B－1）生物および化学に関する基礎知識を習得する。

（B－2）物理、数学および情報技術を工学に応用できる。

（C）生物応用化学の専門知識と応用力

（C－1）生物化学もしくは応用化学に必要な専門知識、および両分野に共通して必要な専門知識を習得しそれらを当該工業分野に応用することができる。

19

学習・教育到達目標の例（生物応用化学プログラム）

（C－2）生物化学もしくは応用化学に必要な実験技術、および両分野に共通して必要な実験技術を体得しそれらを種々の問題解決に応用することができる。

（D）生物応用化学基礎、工学基礎、生物応用化学の専門知識を活用し社会の要求を解決するための企画力を持っている。

（E）国際化に対応できるコミュニケーション基礎能力を習得する。

（F）自主的にテーマを企画立案し、創造的かつ継続的に実施することができる。

（G）地域社会を中心とした産業界に技術者として広く貢献できる。

20

各教育到達目標[(A)～]が基準1(2)(a)～(i)を主体的に含んでいる場合◎、付随的に含んでいる場合〇印

基準1(2)の知識・能力 / 学習・教育到達目標	(a)	(b)	(c)	(d)				(e)	(f)	(g)	(h)	(i)
				(1)	(2)	(3)	(4)					
(A) (A-1)		◎										
(A-2)	◎											
(B) (B-1)			◎									
(B-2)			◎	◎	○							
(C) (C-1)					◎	◎						
(C-2)					◎	◎						○
(D)							◎	◎	◎		◎	
(E)									◎			
(F)							○			◎	◎	◎
(G)							○				◎	○

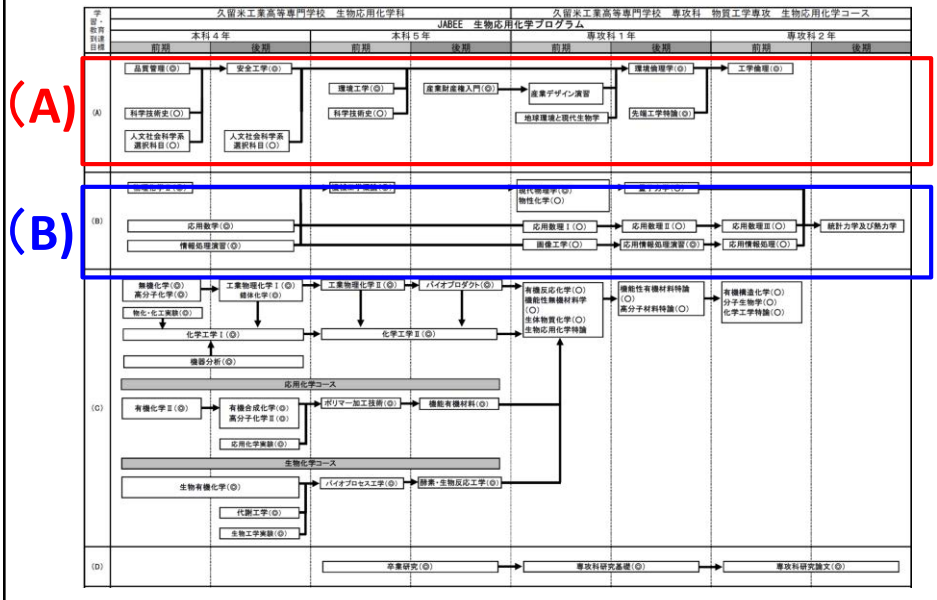
21

基準2 教育手段 カリキュラムの設計

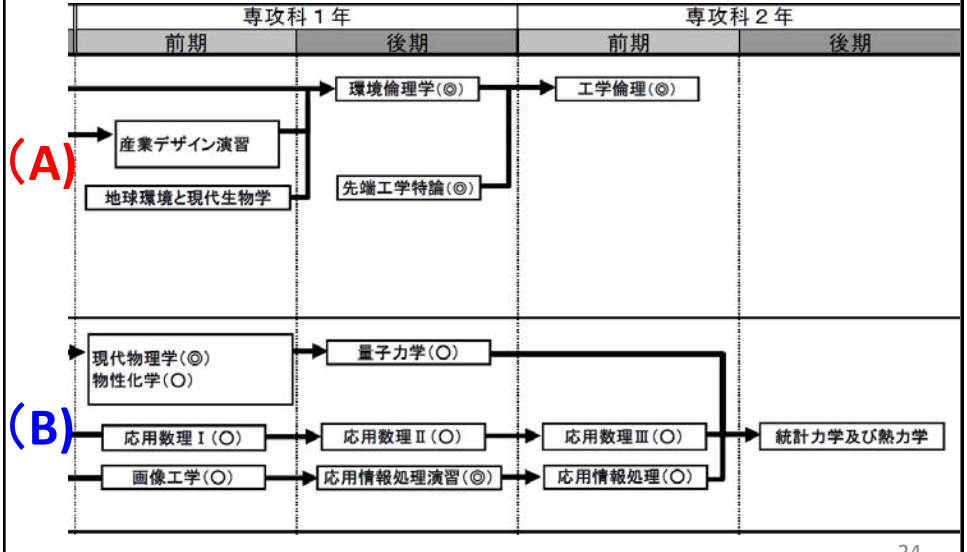
学習・教育到達目標	カリキュラム設計方針
(A) 技術者倫理と多面的視野	技術者として必要な倫理観を身に付け、管理能力、社会に対する説明責任能力や、地球的規模で環境を考え技術をデザインする能力を涵養するために、本科4・5年次および専攻科1・2年次の各学年において、カリキュラム設計を行っている。 技術者が負うべき倫理的責任について学び、管理能力、社会に対する説明責任能力を習得するため、「品質管理」、「安全工学」、「環境倫理学」、「工業倫理」を設置している。 地球規模での環境について学ぶために「環境工学」「地球環境と現代生物学」、技術をデザインする能力について学ぶために「産業財産権入門」「産業デザイン演習」「科学技術史（選択）」「先端工学特論」「人文社会科学系選択科目」「産業財産権特論（選択）」を設置している。

22

各教育到達目標に関連する科目の流れ（生物応用化学の例）



各教育到達目標に関連する科目の流れ
（生物応用化学の例、(A)、(B)に関する専攻科1年2年の科目）



基準3　学習・教育到達目標の達成

各プログラムで修了要件を定めて適用。
修了者には、JABEE委員会で確認し修了証を発行。

基準4　教育改善
教育点検/継続的改善

プログラムごとに
　修了生、在校生等へのアンケート
　教育の実施状況の点検
JABEE委員会での相互のプログラムの点検
　を継続実施。全校のPDCAサイクルにも連動。

25

機械工学プログラム　学習・到達教育目標

（A）広い視野から技術者倫理を理解し自覚できる。
　（A-1）技術者倫理を広い視野から多面的に考えることができる。
　（A-2）技術者倫理に対しその責任を理解できる。
　（A-3）技術者倫理に対しその責任を自覚できる。
（B）数学、物理、情報処理に関する知識を専門分野に応用できる。
　（B-1）数学に関する知識とその工学的応用力
　（B-2）物理に関する知識とその工学的応用力
　（B-3）情報処理に関する知識とその工学的応用力
（C）機械工学に関する以下の専門知識を教授し、職業上応用できる基礎能力を学生の進路に配慮し育成する。
　（C-1）材料と強度
　（C-2）機械設計
　（C-3）生産工学
　（C-4）熱・流体工学

26

機械工学プログラム　学習･到達教育目標

（C-5）制御・情報技術

（D）実験・演習を実施し、その結果を工学的に解析し考察できる。

（D-1）機械工学を学ぶ上で必要な各種の機械や機器の操作ができる。

（D-2）実験・演習の結果を工学的に解析し考察できる。

（E）自主的にテーマを企画立案し、創造的かつ継続的に実施できる。

（F）種々の工学的知識や技術を利用し、自己学習やグループ学習により社会の要求を解決できる。

（G）専門技術に関するプレゼンテーションと国際化に対応できる基礎的なコミュニケーションができる。

（G-1）専門技術に関するプレゼンテーションができる。

（G-2）国際化に対応できる基礎的なコミュニケーションができる。

（H）与えられた条件のもとで技術者として地域社会に貢献できる。

27

電気電子工学プログラム　学習･到達教育目標

（A）先端の電気エネルギーをマネージメントできる電気電子技術の習得

（A-1）電気エネルギーの発生やその制御のしくみを理解し説明できる。

（A-2）電気エネルギーに関する専門的知識、技術を設計に応用できる。

（B）先端の情報通信・電子機器を活用できる電気電子技術の習得

（B-1）ICT 電子機器のしくみを理解し説明できる。

（B-2）ICT 電子機器に関する知識、技術を設計に応用できる。

（C）もの、製品をベースにした技術実務能力の習得

（C-1）電力、電気、電子機器に関する実験を計画、遂行できる。

（C-2）実験データを解析、考察し説明できる。

（C-3）共同で実験・演習を遂行できる。

（D）電気電子技術の基礎となる学力の修得

（D-1）数学、物理などの自然科学や情報技術に関する基礎事項を説明できる。

28

電気電子工学プログラム　学習・到達教育目標

(D-2) 自然科学や情報技術に関する基礎事項を電気電子技術の専門領域で適用できる。

（E）技術に関するコミュニケーション能力の育成

(E-1) わかりやすく論理的に情報や意見を文書や口頭で伝達できる。

(E-2) 英語により電気電子技術に関する基本的なコミュニケーションができる。

（F）技術者倫理感覚の育成

(F-1) 技術が地域社会や国際社会あるいは自然環境に及ぼす影響、効果を理解できる。

(F-2) 規格、品質、安全性等に関する技術者の責任を説明できる。

（G）企画・管理能力の育成

(G-1) 実験・実習や社会との連携活動の中から技術的な課題を見出すことができる。

(G-2) 技術的な課題を解決するための計画を立案し遂行できる。

29

制御情報工学プログラム　学習・到達教育目標

（A）技術者としての広い視野と倫理観

(A-1) 豊かな心をもち、広い視野で物事を捉えることができる。

(A-2) 技術者としての倫理観を持ち、技術が社会、自然環境に及ぼす効果や影響を理解することができる。

（B）基礎工学の知識と応用力

(B-1) 数学、自然科学、情報技術に関する知識を持ち、基礎的な工学問題の解決に応用できる。

(B-2) 制御、情報工学専門周辺の基礎工学に関する知識を持ち、基礎的な工学問題の解決に活用できる。

（C）専門工学の知識と応用力

(C-1) 制御、情報およびこれらに関連した機械、電気電子分野の専門知識を持ち、工学問題の解決に応用できる。

(C-2) 各専門分野の知識、技術を複合的に関連づけることができる。

(C-3) 上記の分野の基礎的な知識・技術をもとに実験し、分析、考察することができる。

30

制御情報工学プログラム　学習・到達教育目標

（D）デザイン力

学んだ知識や技術をベースにして社会の要求に対する解決法を立案し、実現までの手順を計画することができる。

（E）コミュニケーション力

（E-1）日本語で自己の考えや知識を的確に表現し、議論することができる。

（E-2）英語による基礎的なコミュニケーションができる。

（F）実践力

（F-1）他社と協力して課題に取り組むことができる。

（F-2）自ら学んで、必要な知識や情報を獲得し、継続的に学習できる。

（F-3）与えられた課題に対して、計画的に作業を進め、期限内にまとめることができる。

31

材料工学プログラム　学習・到達教育目標

（A）自然科学および情報処理技術に関する知識

（A-1）数学、物理、化学などの自然科学に関する基礎知識を持ちその応用ができる。

（A-2）情報処理に関する知識や技術を専門分野に適応できる。

（B）材料に関する基本的知識と応用力

（B-1）材料、特に金属およびセラミックス材料の物性、構造、性質についての基礎知識を身に付けている。

（B-2）材料、特に金属およびセラミックス材料の製造プロセスについての基礎知識を身に付けている。

（B-3）これらの知識を工学問題の解決に活用できる。

（C）工学的基礎原理・現象の理解能力

（C-1）工学的な基礎原理・現象を実験によって理解できる。

32

材料工学プログラム　学習・到達教育目標

（D）調査および実行能力

（D-1）課題に対して自主的に調査できる。

（D-2）計画性を持って物事に取組み、実行できる。

（D-3）課題の結果を間違いの少ない文章および口頭で表現し、討論できる。

（E）異文化理解とコミュニケーション能力

（E-1）英語により材料工学に関する基本的コミュニケーションができる。

（F）多面的視野と技術者倫理

（F-1）技術の人間社会や自然環境への関わりを理解し、グローバルに物事を考えることができる。

（F-2）技術者の社会的責任を自覚することができる。

（G）地域産業での実務経験

（G-1）インターンシップなどの実務経験を通して、多面的に物事を考えることができる。

33

JABEEプログラム修了者の推移

H16～26年度修了者数：371名

	教育プログラムの修了者数				
修了年度	機械	電気電子	制御情報	生物応用	材料
H16	5	6	4	6	2
H17	8	8	3	3	1
H18	3	7	14	3	6
H19	6	6	9	12	3
H20	6	6	8	8	7
H21	7	3	5	9	7
H22	5	6	10	13	2
H23	9	12	4	8	4
H24	6	7	16	11	5
H25	5	6	11	6	5
H26	6	7	5	8	5

34

5.まとめ

- 平成16年度より学科対応の5プログラムを維持
- 教育の質の向上を図る体制を確保
- 高専機構:JABEE認定等を活用して教育の質向上

6.今後の課題

- プログラム修了生に対する企業での評価
  ⇒修了生、在学生に対す利点
- 日常負担軽減⇒活動のルーティンワーク化
- 平成16年度新規認定時に比して運営予算減
  ⇒認定の維持・継続費用負担の増大への対応

35

説明資料

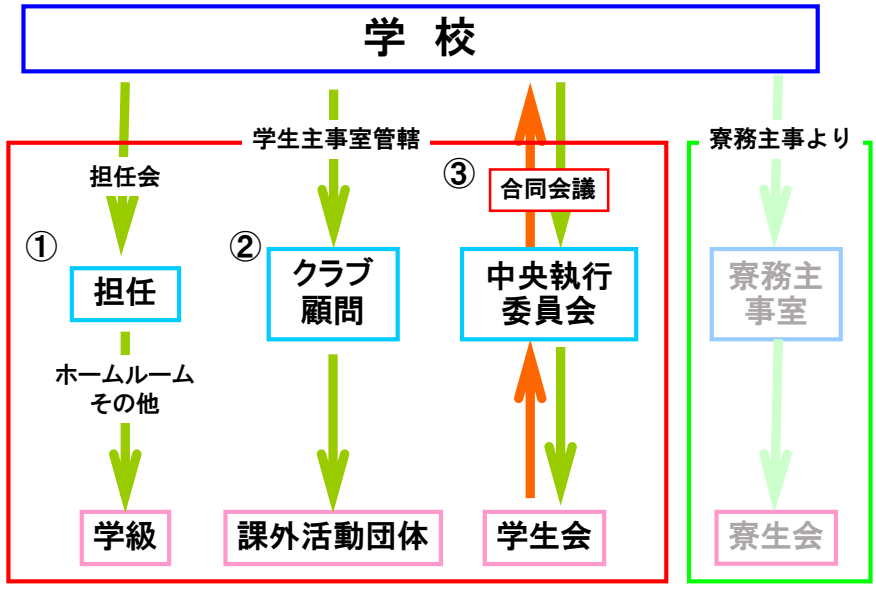
学生指導の現状について

校長補佐／学生主事　　辻　　豊

久留米高専における
学生指導の現状

学生主事　辻　　豊

久留米高専における学生指導体制



学級担任（高専教育における学生指導の最前線）

平成２７年度本科学級担任

学科＼学年	1	2	3	4	5
機械工学科	黒飛	高橋	細野	谷野	原田
電気電子工学科	龍頭	米永	吉田	加藤	ウリントヤ
制御情報工学科	川嶋	藍澤	小田	堺	江頭
生物応用化学科	横溝	松田康	渡邊	松田貴	萩原
材料工学科	藤木	谷	篠栗	岩田	矢野

専攻科学級担当

専攻＼学年	1	2
機械･電気システム工学専攻	大津	綾部
物質工学専攻	石井	奥山

学級担任の業務：学習・生活・経済（授業料免除・奨学金など）・就職・留学指導・留学生指導など

担任会（校務・学級運営に関する連絡・意見交換の場）

平成２７年度前期

回	日にち	時間
第1回	4月3日（金）	10:00～
第2回	4月14日（火）	16:40～
第3回	4月28日（火）	16:40～
第4回	5月12日（火）	16:40～
第5回	5月26日（火）	16:40～
第6回	6月16日（火）	16:40～
第7回	6月30日（火）	16:40～
第8回	7月14日（火）	16:40～
第9回	9月1日（火）	16:40～

※担任会打合せ：4月2日（木）10:00～

平成２７年度後期

回	日にち	時間
第10回	10月6日（火）	16:40～
第11回	10月20日（火）	16:40～
第12回	11月10日（火）	16:40～
第13回	12月8日（火）	16:40～
第14回	12月21日（月）	16:40～
第15回	1月12日（火）	16:40～
第16回	1月26日（火）	16:40～
第17回	2月16日（火）	16:40～
第18回	3月8日（火）	16:40～

隔週火曜日16：40に設定され、学生への連絡事項等が説明される。

担任会

平成２７年度 第１１回学級担任会

期　日　　平成２７年１０月２０日(火)１６時４０分 ～
場　所　　Ｄ４教室

今後の行事予定
- １０月２３日(金)：タイ王国高校生招聘交流事業
- １０月２６日(月)：入試説明懇談会(久留米)　15：00～16：30　Ｄ４教室
- １０月３１日(土)～１１月６日(金)：高専祭　本科、専攻科授業なし
- １１月　８日(日)～１１月１０日(火)：ＪＡＢＥＥ実地審査
- １１月１０日(火)：担任会
- １１月１４日(土)：学校説明会　13：00～　Ｄ４教室
- １１月１４日(土) ～１１月１７日(火)：九州沖縄地区高専体育大会(冬季)ラグビー
- １１月２８日(土)：編入学試験
- １２月　１日(火)～１２月　７日(月)：後期中間試験 専攻科は平常授業
- １２月　２日(水)：ＦＤ会議　15：50～
- １２月　８日(火)：担任会
- １２月　９日(水)：午後クラスマッチ　本科午後授業なし　専攻科は平常授業
- １２月１０日(木)：クラスマッチ　本科授業なし　専攻科は平常授業
- １２月１３日(日)：大学評価・学位授与機構試験(旧方式)
- １２月１３日(日)～１２月２０日(日)：第４回体験入寮

【教務関係】
１　前期成績処理について
- 成績一覧表、欠課回数表を配付済、担任所見を依頼済（明日２１日入力期限）

２　高専祭に伴う教室の使用と整理整頓について
- 一般教室棟は、高専祭で使用するため、懇談会での使用は不可
- 教室を汚さない、整理整頓すること。
- 高専祭で使用した道具等を放置しないこと。

担任会資料抜粋

連絡事項は、掲示板にも掲示。
「いじめ防止」の情報交換も行っている。

担任会で案内される事項

【全体】
- 今後の予定行事

【教務関係】　教務主事室
- 授業にかかわる連絡
- 試験にかかわる連絡
- 大学説明会の案内

【学生関係】　学生主事室
- 奨学金に関する案内
- 授業料免除の案内
- 学生の生活全般に関する注意事項
- クラブ活動に関する連絡
- 学生会行事に関する連絡
- 就職支援に関する案内
- 講習会等の案内

【寮務関係】　寮務主事室
- 寮関係の行事について

【その他】
- 相談室の案内
- 図書館に関する事項

など

ホームルーム：毎週水曜日３限目

（平成２７年度月～水までの時間割）

担任はホームルームの時間以外にも、昼休みや放課後に学生の指導・相談に当たります。

学生の個人指導（1）：学生処分

学生処分にあたる行為：飲酒・喫煙・校内交通違反・飲酒強要・受験不正行為・悪質交通違反（暴走行為等）・暴力行為・器物破損・窃盗・集団による暴力やいじめ

これらの行為が発覚した時

学生主事補で事情聴取

担任は弁護士的役割で参加します。

厚生補導委員会（処分決定）

・過去の前例に従い処分期間が決定

無期停学（暴力、窃盗）

担任（学生主事室）で指導
反省文（週に一度）
自宅学習のノート

厚生補導委員会（処分解除）

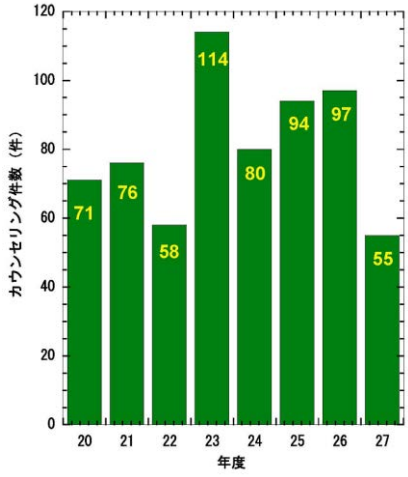
有期停学（その他の行為）

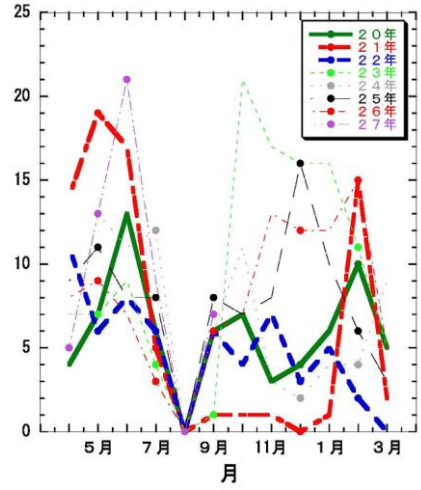
・処分開始日から期間が終われば処分解除

学生の個人指導（2）：学生相談室（学外カウンセラー＋学内教職員）

相談室のほか、色々な先生のところに相談に行っています。
教員は教員室（個室）があり、相談を受けやすい環境になっています。

学生相談室カウンセリング受診件数（のべ）





年間のべ１００件程度の利用がある。
重大な案件は担任と相談室が連携しながら解決に取り組んでいます。
相談内容：学業について・対人関係が多いようです。

クラブ顧問：課外活動を通した学生指導

教員は体育局のどこかのクラブに所属しなければなりません。

クラブ顧問リスト

体育局：18団体

総務局指導教員：田中　会計局指導教員：松島　体育局指導教員：赤塚　文化局指導教員：周　渉外局指導教員：山本（哲）

	体育局	代表顧問	顧　問
1	陸上競技部(5)	赤塚	矢野・田中(大)・平元・篭田
2	柔道部(3)	小宮	馬越・盤澤
3	剣道部(4)	越地	原田・安部・清長
4	弓道部(4)	中野	中嶌・笈木・萩原
5	硬式野球部(7)	渡邊	梅・岡本・熊丸・平川・奥山・(篠崎)
6	バレーボール部(6)	高橋	山崎・金城・江頭・谷野
7	バスケットボール部(6)	山本(哲)	黒木・山本(祐)・福田・川上・堺
8	テニス部(4)	周	小田・加藤・池田
9	ラクビー部(6)	松島	江崎・米永・和泉・青野・松田(康)
10	合気道部(2)	笹薗	ウリントヤ
11	水泳部(4)	松田(貴)	綾部・田中(慎)・冨岡
12	サッカー部(6)	谷	石井・宮本・松本・大津・中武
13	バドミントン部(6)	龍頭	津田・原・岩田・川嶋・中島
14	卓球部(4)	松山	石丸・丸山・横溝
15	ハンドボール部(4)	篠島	黒飛・宮崎・沖田
16	ソフトテニス部(4)	藤木	辻・吉田・中島
17	空手同好会(2)	山口	細野
18	サイクリング同好会(2)	中尾	大津

文化局：17団体

（氏名）：人事交流中の教員を示す

	文化局	代表顧問	顧　問
1	囲碁将棋部(2)	山口	黒飛
2	英会話部(5)	福田	加藤・金城・安部・横溝
3	軽音楽研究部(2)	萩原	津田
4	茶道部(3)	馬越	梅・中野
5	新聞文芸部(2)	川上	小宮
6	吹奏楽部(4)	宮崎	池田・綾部・奥山
7	美術部(3)	中嶌	丸山・沖田
8	華道部(2)	渡邊	米永
9	自動車部(2)	中尾	藤木
10	ロボットコンテスト部(6)	中尾	熊丸・松本・大津・ウリントヤ・細野
11	プログラミングラボ部(3)	黒木	丸山・松島
12	ピアノ同好会(2)	小宮	中嶌
13	鳥部(3)	田中(大)	原田・松山
14	写真部(2)	周	山本(祐)
15	エコパワー同好会(3)	中武	川嶋・谷野
16	自然エネルギー研究同好会	熊丸	石丸
17	ダンス愛好会(2)	岡本	川上

代表顧問が中心となり、クラブ指導を行っている。
多くの代表顧問は関連の協会・連盟とかかわりを持っています。

体育局団体の参加する主な大会
・高専体育大会（全国高等専門学校連合会）
・高等学校体育連盟主催の大会（1～3年生）（10団体）
・高等学校野球連盟主催の大会（1～3年生）など

高専体育大会：高専生のための大会（７月に九州沖縄地区大会・８月に全国大会）
持ち回りで運営（九州沖縄地区大会は9年に1度大会運営）
→関連する連盟・協会と関係の必要性（会場・審判等の手配）

文化局団体の参加する主な大会・コンテスト
・ロボットコンテスト：ロボットコンテスト部
・プログラミングコンテスト：プログラミングラボ部
・プログラミング甲子園：プログラミングラボ部（1～3年生）
・スーパーコンピューティングコンテスト：
プログラミングラボ部（1～3年生）
・飛行ロボットコンテスト：鳥部
・柳川ソーラーボート大会：自然エネルギー研究同好会
・九州沖縄地区高等専門学校英語弁論大会：英会話部

高専祭・文化部発表会で発表

学生会を通した学生指導（双方向の学生指導）

学生会組織

議決機関

学生大会（5月・12月開催）
（学生会における最高議決機関）

代議員会
（クラスの代表者からなる。学生大会の代行議決機関）

学級会
（クラス運営を司る）

執行機関

中央執行委員会
総務局
会計局
体育局
文化局
渉外局

監査機関

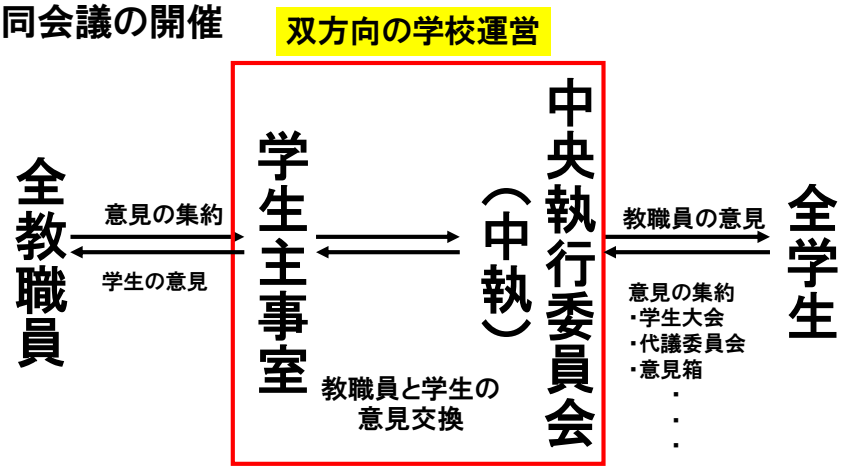
監査委員会

選挙管理委員会

学生会中央執行委員会（中執）

委員長：約１０００人の学生を束ねる学生の長。
　　学生大会の投票で選出。
副委員長（２名）：委員長の懐刀。各種講習会を担当。
会計局：学生会の大蔵省。
体育局：運動部（18団体）をまとる。クラスマッチを運営する。
文化局：文化部（17団体）をまとる。献血・清掃も担当する。
総務局：庶務の業務に当たる。学生大会の準備を担当。
渉外局：文化部発表会・高専祭を担当。
　　加えて、渉外の業務に当たる。
監査委員会：会計監査の業務を担当。

合同会議の開催



合同会議開催の目的：　「学生会行事の円滑な遂行」、「リーダーの育成」、「学生の代表としての意識の向上」、「意見を述べる練習」、「学校に対する関心の向上」、「学生の意見の取りまとめ」、など（色々な「想い」がこもっています。）

ここで提案された「学生の意見」は実現するように努力しています。

学生からの要望

これまでに実現した項目

- Wave Hallの土曜日開錠（日曜日開錠の予定）
- Wave Hallに無線LAN導入（予定）
- 女子トイレの目隠しカーテン
- プラズマディスプレイの活用
- 各種講習会の実施
- ボランティアによる校内清掃
- ボランティアによる校外清掃
- 駐輪場の電燈
- 駐輪場のスロープ
- 駐輪場の拡充
- 傘ステーションの導入（予定）
- 外灯（校内）の増設（予定）

実現までの流れ

中執による要望収集

学生大会
代議委員会
意見箱など

「学生」の要望として集約

↓

合同会議

↓

学生主事室で検討

↓

厚生補導委員会で審議

↓

実現！

未解決の項目

- 駐車場の舗装 ← 大きな予算が必要な項目は早期対応が困難

合同会議:学生会行事の合間に開催

学生会行事
合同会議（準備状況の報告）
合同会議（反省・活動報告）

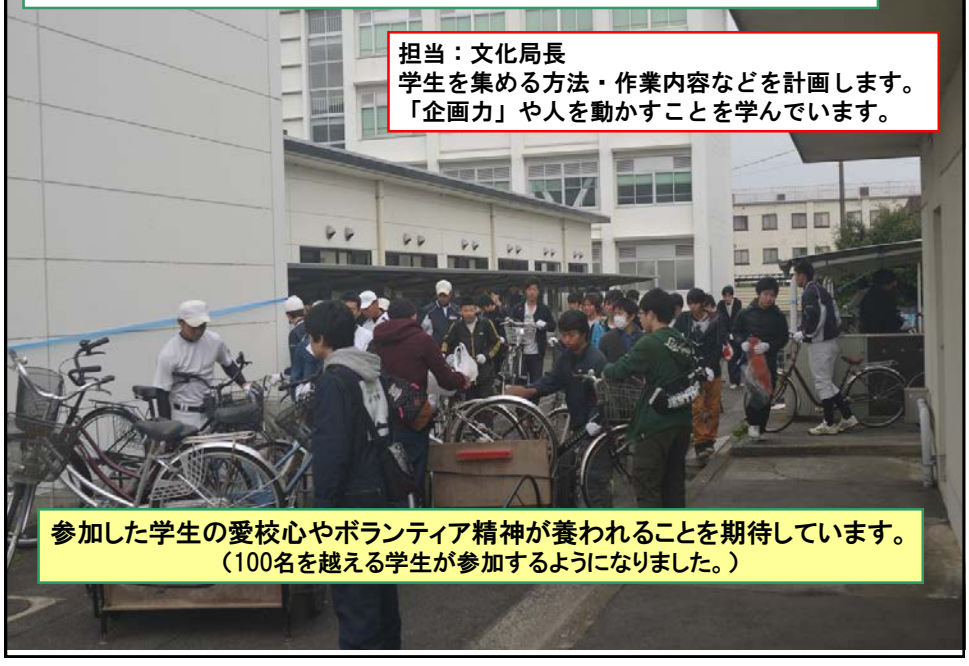
平成27年度学生会行事

4/6：一年生合宿研修
4/8：就職支援セミナー
4/15：部活動紹介
5/8・9：一年生合宿研修
5/9：クラスマッチ・学生大会
5/13・14：クラスマッチ
5/20：学生大会
5/27：学生大会の報告、文化部発表会
6/17：ビジネスマナー講習会
6/17：文化部発表会
6/27：文化部発表会
7/8：文化部発表会・清掃・高専祭
7/28：ボランティア清掃

10/21：高専祭の準備状況、清掃
10/31～11/6：高専祭
10/31:竹取・やぐら組み立て
11/2：高専祭前夜祭
11/3：高専祭
11/4：片づけ・体育祭準備
11/5：体育祭
11/6：片付け
11/18：高専祭、クラスマッチ、学生大会
12/9：学生大会
12/9・10：クラスマッチ
1/16：予餞会
3/4：清掃
3/?：ボランティア清掃

（就職支援セミナー・ビジネスマナー講習会・ボランティア清掃も合同会議から生まれました。）

学生のボランティアによる校内・校外清掃（３月・７月）



担当：文化局長
学生を集める方法・作業内容などを計画します。
「企画力」や人を動かすことを学んでいます。

参加した学生の愛校心やボランティア精神が養われることを期待しています。
（100名を越える学生が参加するようになりました。）

各種講習会の実施
ビジネスマナー講習会
就職支援セミナー

担当：副委員長
・学生の要望を調査し、開催時期・内容を検討します。
・講師との打合せもやります。
・「企画力」や「交渉能力」を養っています。

学生が自主的に企画し、参加することに意味があります。
参加した学生も真剣でした。

文化祭・体育祭実行委員の活動風景

学生主事室→実行委員長→実行委員の命令系統が確立されています。
学生が企画の「Top」に立つことに意味があります。
委員長は全体を見渡す能力を、学生は共同で仕事を進める能力を養います。

高専祭（11月1日～6日）

11月１日：**準備（竹取）**

やぐらに飾り付ける竹（長さ約15m）を自分たちで切り出して、高良山から歩いて運びます。

11月１日：準備（やぐらの組み立て）

上級生が下級生を指導し、技術が伝承されています。

１１月２日：御輿行列・前夜祭

バザー出店

ステージ上のパフォーマンス

御輿行列

コースの確認、警察との交渉、地域住民への挨拶等、全て学生がやります。
７月の清掃にコースになっている一番街のごみ拾いが含まれています。

11月3日：文化祭

ステージの企画だけでなく、各学科の学生による公開実験・クラブの作品展示など、全て学生により企画運営されています。

11月４日：文化祭片付け・体育祭準備

片付け（ごみの分別）も上級生が下級生を指導して行います。

高専教育の魅力（15歳～20歳の学生＋自由）

教員：アドバイザー（学生の行動を予測し、やり過ぎないように制御。
「なぜ」の説明→「合同会議」）

教　員

目標

低学年　＋　高学年

指導（技術・ノウハウの伝承）

企画力、問題発見・解決能力、コミュニケーション能力、指導力、など技術者・研究者に必要な能力が養われていきます。

学生会行事は学生の「考える」を育てる大切な行事です。

高校+大学ではできない人材育成を目指しています。

説明資料

学生寮の現状について

校長補佐／寮務主事　　石　丸　良　平

学生寮の現状について

寮務主事　　石丸 良平

1

久留米高専学生寮

筑水寮（男子寮：定員２１０名）

つつじ寮（女子寮：定員３０名）

沿革（寮関係）：　昭和39年4月　久留米高専設立
昭和42年3月　学生（男子）寮竣工
昭和61年3月　学生（男子）寮増築工事竣工
平成24年3月　学生（女子）寮竣工

2

学生寮の設備

男子寮エントランス

多目的室（学習室）

女子寮多目的スペース

寮セキュリティ環境

- 教職員24時間在勤
- 防犯カメラ
- 出入口電子錠
- 居室鍵
- 居室貴重品ボックス
- 熱感知器、煙感知器
- 避難訓練
- 点呼
- 寮内巡回

4

経費（月額）

・寄宿料（800円（一人部屋）
　　700円（二人部屋））
　→高専機構へ

・諸経費（8,000円）
　→寮費

・給食費（30,000円程度）
　→給食提供業者と個別に契約

5

運営予算

・寮費（8,000円／月・人）
・運営費交付金
・後援会
・市資源回収奨励金

↓

・生活費（光熱費、エアコンリース・・・）
・施設補修（食堂、トイレ、居室・・・）
・行事（寮祭、成人式、夜食・・・）

6

学生寮入寮者状況

平成27年11月1日現在

学科等	1年	2年	3年	4年	5年	計
機械工学科	9	4	10	7	6	36
電機電子工学科	13(1)	2	12(2)	12(1)	3(1)	42(5)
制御情報工学科	8(3)	7(1)	5	8	4(1)	32(5)
生物応用化学科	9(3)	7(1)	5(1)	5(2)	2(2)	28(9)
材料工学科	4(3)	6(1)	9(4)	7(1)	5(2)	32(11)
専攻科	1	5	–	–	–	6
合計	46(10)	33(3)	42(7)	38(4)	18(6)	176(30)

（ ）は女子で内数

学生寮入寮者状況（出身地別）

平成27年11月1日現在

出身地	1年	2年	3年	4年	5年	専攻科1年	専攻科2年	研究生	合計
福岡	36(9)	22(2)	30(4)	31(5)	17(6)	1	5		142(26)
佐賀	5		3	3					11
大分	2(1)	1	2(1)	1	2				8(2)
鹿児島		2	1						3
その他		1(1)		1					2(1)
外国			4(1)	4	1			1	10(1)
合計	43(10)	26(3)	40(6)	40(5)	20(6)	1	5	1	176(30)

（ ）は女子で内数

8

学生寮の運営・管理組織

寮務主事室（教員）
- 主事（1名）
- 主事補（4名）

学生課 寮生活支援係
係長，係員，寮母（各1名）

寮務委員会（教職員）
- 委員長（寮務主事）
- 委員　寮務主事補（4名）
  他主事室代表（3名）
  学科代表（3名）
  学生課長・係長（2名）

寮生会（寮生）
- 寮長（1名）
- 副寮長（2名）
- 美化委員長（委員5名）
- 文化委員長（委員3名）
- 会計委員長
- 広報委員長（広報委員1名）
- 男子消防隊長（消防副隊長1名）
- 女子消防隊長
- 班長（各階に2～3名）

9

日課表

点　呼	7時45分（休校日　8時00分）
朝　食	7時45分 ～ 8時30分（休校日は～9時00分）
昼　食	11時45分 ～ 12時45分
夕　食	18時00分 ～ 19時30分（休校日は～19時00分）
入　浴	18時30分 ～ 21時55分 （シャワーのみ　7時00分～18時30分使用可）
点　呼	22時00分
清　掃	22時05分 ～ 22時30分
学　習	21時00分 ～ 23時00分
消　灯	23時00分

10

学生寮の主な年間行事

4月　7日（火）	対面式・寮生総会
4月15日（水）	ゴミ分別講習会
4月16日（木）	避難訓練
4月18日（土）	寮祭
5月13日（水）	文化交流会
5月14日（木）	ヘルスチェックキャンペーン
6月14日（日）	テーブルマナー講習会
7月　8日（水）	大掃除
10月　4日（日）	和食作法講習会
10月14日（水）	防災訓練
12月12日（土）	寮祭
12月22日（水）	大掃除
1月13日（水）	成人式・寮生総会

閉寮期間中の寮の利用

（平成27年度）

春季休業

４月　５日(日)10時：開寮
７月22日(水)14時：閉寮

夏季休業

８月30日(日)10時：開寮
12月26日(土)14時：閉寮

冬季休業

１月　５日(火)10時：開寮
３月　８日(火)14時：閉寮

春季休業

閉寮期間中：

- 留学生
- 専攻科学生
- 部活動の合宿

12

学生寮環境改善への取り組み

・役員会議（毎月）
・班長会議（毎月）
・食堂懇談会（年4回）
・他高専寮視察
・ゴミ分別回収
・大掃除
・TA制度

⇔ 寮生会

13

平成27年度 寮務関係目標

1. 新V200プラン(平成28年度寮生200名)の継続
・寮居室・共通部分の計画的な整備・改修による住環境改善
・寮食（特別食，夜食中心）の充実
・体験入寮制度の実施
・点呼，外泊願等の管理・運用システム導入に向けた検討

2. 6S(整理・整頓・清掃・清潔・作法・躾)の徹底
・ごみ分別回収、資源ごみ回収、不要物品リサイクル活動の遂行
・寮生による内掃、外掃の定期的な実施
・各種講習会・講演会(テーブルマナー等) の開催
・「早寝、早起き、朝ごはん」運動の推進
・ヘルスチェックキャンペーン

3. 寮生会活動の推進（寮生会の自主自律）
・対面式、成人式
・寮祭、TA制度、外部寮視察等
・避難訓練、防災訓練、非常食シミュレーション
・寮生会役員会、班長会議（年8回)
・食堂＆寮生会懇談会(年4回)

14

学生寮まとめ

・通学困難学生へ宿泊施設の提供
　遠隔地からの通学

・教育寮
　共同生活、日課、年間行事、寮生会

・国際交流
　留学生、外国人研究生

15

平成２７度　外部評価委員会報告書

編集　　久留米工業高等専門学校

発行　　久留米工業高等専門学校
平成２８年３月発行

〒８３０－８５５５　久留米市小森野一丁目１番１号
ＴＥＬ　０９４２－３５－９３００
ＵＲＬ　http://www.kurume-nct.ac.jp/